

2024年度～2026年度

一般選抜 前期日程

入試問題集
国語
(解答付)

2024 年度 新潟医療福祉大学

一般選抜（前期日程）

【2月1日(木)】

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は24ページから成っています。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気づいた場合は、その場で静かに手をあげて試験監督者に知らせてください。
4. 解答はすべて解答用紙の解答記入欄にマークしてください。問題冊子に記入したものを解答として提出することはできません。
5. 解答用紙には、氏名、解答科目、受験番号を正しく記入してください。解答科目は、解答科目欄の「国語」にマークしてください。これらが間違っていると解答が無効となりますので、十分注意してください。
6. 解答には必ずHBの黒鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。ボールペンや万年筆等は使用できません。

一

次の(1)～(7)の傍線部にあてはまる漢字を選びなさい。また、(8)～(10)の文の意味として正しいものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 10。

(1) 学校生活でチキを得る。

- ① 企 ② 己 ③ 紀 ④ 寄 ⑤ 貴

(2) 部屋のケイコウトウをつける。

- ① 継 ② 掲 ③ 蛩 ④ 携 ⑤ 警

(3) 神にクモツを捧げる。

- ① 区 ② 驅 ③ 苦 ④ 供 ⑤ 句

(4) 友人にゲンメツされる。

- ① 減 ② 嚴 ③ 源 ④ 幻 ⑤ 弦

(5) 恐れがフツシヨクされる。

- ① 触 ② 飾 ③ 拭 ④ 色 ⑤ 囑

(6) 聴衆は拍手カッサイした。

- ① 斎 ② 彩 ③ 宰 ④ 歳 ⑤ 采

(7) 卒業生のソウダイを務める。

- ① 双 ② 走 ③ 壮 ④ 創 ⑤ 総

(8) 彼は部活中、なおざりな態度を顧問の先生に注意された。

① 彼は部活中、いい加減な態度を顧問の先生に注意された。

② 彼は部活中、反抗的な態度を顧問の先生に注意された。

③ 彼は部活中、強引な態度を顧問の先生に注意された。

④ 彼は部活中、相手を見殺す態度を顧問の先生に注意された。

⑤ 彼は部活中、相手をばかにする態度を顧問の先生に注意された。

(9) 彼女は寝坊して電車に乗り遅れ、昨夜の夜更かしに臍^{はそ}をかむ思いをする。

① 彼女は寝坊して電車に乗り遅れ、昨夜の夜更かしに失笑する思いをする。

② 彼女は寝坊して電車に乗り遅れ、昨夜の夜更かしに落胆する思いをする。

③ 彼女は寝坊して電車に乗り遅れ、昨夜の夜更かしに羞恥する思いをする。

④ 彼女は寝坊して電車に乗り遅れ、昨夜の夜更かしに後悔する思いをする。

⑤ 彼女は寝坊して電車に乗り遅れ、昨夜の夜更かしに憎悪する思いをする。

(10) 弟が父になかなか謝らない様子を、隔靴搔痒^{かつかそうよう}の思いで見ている。

① 弟が父になかなか謝らない様子を、あきれ返るような思いで見ている。

② 弟が父になかなか謝らない様子を、もどかしい思いで見ている。

③ 弟が父になかなか謝らない様子を、もの悲しい思いで見ている。

④ 弟が父になかなか謝らない様子を、仰天するような思いで見ている。

⑤ 弟が父になかなか謝らない様子を、腹立たしい思いで見ている。

一一

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

もしもあなたが、十九世紀はじめに生まれたピアニストだったら。どのように自分を世に売り込もうとするだろうか。ピアノ・コンクールもない。公開演奏会を開くことすら、誰にでもできる時代ではなかった。

方法がひとつある。⁽¹⁾ サロンで認められることだ。

ここでいうサロンとは、高貴な身分の女主人が、瀟洒な邸宅の優雅な装飾でしつらえた居間で、気のあう友人や芸術家たちを招き、お茶を楽しみながら、自慢話やゴシップ話に花を咲かせるという、そのようなサロンではない。

女主人のしゃれた言葉づかいが、そのまま箴言集（しんげんしゅう）といった古典文学となり、大物同士の何気ない会話から、一国の命運が決するという、ヨーロッパの文化や歴史そのものが作られたサロンのことである。

フランス革命によって崩壊したアンシャン・レジーム（旧体制）が、復古王政という新体制でよみがえるのは、一八一四年のことだ。それから、フランスの歴史から王政が完全に消滅するまでの三十四年間は、十九世紀サロンという、旧貴族とブルジョワ貴族が入り乱れた優雅で奇妙なサロン文化が花開いた時代だった。

リストやショパンが活躍したパリ・サロンは、この復古王政下でのサロンである。

そのなかで、とくに活発だったのが、文学サロンや音楽サロンなどの、芸術サロンだった。ただ忘れてはならないのは、芸術家だけではなく、政治家や銀行家など政財界の大物たちも、サロンの重要人物だったということだ。

サロンは、社交界そのものだった。当時のパリで「社交界に出かける」は、「サロンに出入りする」と同義語だった。

サロンの女主人たちは、「サロンニエール」と呼ばれた。

たとえば、歴史的に有名なサロニエールであるボンパドゥール侯爵夫人。もし彼女を、美貌によってルイ十五世の愛妾（あいしやう）になり、国王を陰で操った悪女、というイメージだけで語ろうとするなら、⁽²⁾ それは軽率だ、といわねばならない。

女性が選べる職業が、ほとんど存在しなかった十八世紀。ひとりの女が最高の権力の座に君臨するために、どれほどの知性と教養と胆力と直観力と洞察力とを身に付けねばならなかったか。

それらを絶えず磨きつづけ、裏切りと憎悪と嫉妬と策略が渦巻く宮廷生活をしたたかに生き抜くことが、どれほど凄まじいことだったか。

サロンでは、啓蒙思想家たちと国家の存亡を議論しあい、拔群の美的センスで、若き芸術家たちの才能を的確に見抜き、必要とあらば私財を抛^{なげ}って支え続けるということが、どういうことだったか。

それらを知れば、男など敵^{かな}うわけがない、という気にもなってくる。

サロンは、女たちの小宇宙だった。

そこは、男の社会だった時代に、女性ならではの感性で、自由に羽ばたくことが許された空間でもあった。⁽³⁾噂^{うわさ}やゴシップのような、いつ

けん取るに足らないようなものでも、彼女たちの感性は、ひとつの文化に仕立てたのである。^(注2)たとえば、会話術。サロンで交わされた会話は、研ぎ澄まされたエスプリと諧謔^{がきぎやく}に彩られた、知性と教養の饗宴^{きやうえん}であった。それは「おしゃべり」といった気楽なことばでは、とても片付けられそうにない。

実際に、サロンではどのような会話が交わされていたのか。フランス批評界の大家サント＝ブーヴは、「パリのサロンでは、一度にたったひとつの主題しか会話をしない。大きいか小さいか。彗星^{すいせい}か革命か。地震か、さもないければチャリティー・バザーについて」と語っている。これらのテーマを、じっくり二週間もかけて論じ尽くすのだという。

ひとつのテーマを、何年もかけて論じあった、という話もどこかで聞いたことがある。あきれるというか、すごいというか。けれども、そうして磨かれてきた「会話術」や「社交術」が、現代ヨーロッパ人たちの議論好きや外交センスに活かされていることは、間違いない。

さらに、サロンでは会話や芸術だけを楽しんでいたわけではない。彼女たちの旺盛な好奇心は、科学や医学の分野にまで及ぶ。

あるサロンでは、客たちは当時流行だった神秘的な催眠術ショーに熱中し、また、あるサロンでは解剖の夜という集いが企画された。テーブルにのせられた本物の死体を、医師が「いまから首を切ります。筋肉を剥^むき出しにします」と解説しながら解剖するという奇怪な企画である。貴婦人たちは、このショーを、アイスクリームを食べ、冷たい飲み物とお菓子をつまみながら、固唾^{こだ}を飲んで見守るといふのだ。

サロン文化は、邸宅の広間だけで繰り広げられたものではなかった。サロンの趣味が発揮される場所も、その範疇^{はんちゆう}に含まれた。

(4) たとえば、劇場である。

十九世紀前半、パリの社交界で人々が音楽を楽しむ代表的な劇場は、オペラ座とイタリア座だった。当時のオペラ座は、現在のオペラ座（オペラ・ガルニエ）からやや離れた、ル・ペルティエ通りというところにあった。イタリア座は、幾度か移転を繰り返したもののオペラ座の近くにあり、このふたつの劇場がある界隈は、いつも夜ごと着飾った貴族やブルジョワたちの華やかな社交場となっていた。

オペラ座は、主にフランス語のオペラを上演し、イタリア座は、イタリア語のオペラが中心だった。

リストのパリ・デビュー公演が行われたイタリア座は、当時のパリでもっともエレガントな劇場といわれた。それは、粗野で礼儀をわきまえない客も出入りしたオペラ座に比べ、より洗練されたマナーを具えた、真の音楽がわかる通人たちが集まる劇場とされていたからだ。

たとえば、イタリア座では、遅れて到着したり、大声で笑ったり喋ったりという、オペラ座ではあたりまえに行われたようなことは、決して許されなかったという。ボックス席の値段も、オペラ座より、イタリア座の方が一フランだけ高かった。

社交界では、イタリア座のことを、喜歌劇など軽いオペラの名称「オペラ・ブッフア」をもじって、フランス語風に「レ・ブフ」と呼んだ。

貴族たちが、「レ・ブフ」ということばに込めたのは、厳格なオペラ・セリア（まじめなオペラ）の反動として誕生したオペラ・ブッフアに漂う、自由で軽妙な空気感だった。

そこには、社交界独特のことば遊びのセンスがある。レ・ブフという愛称は、X のようなものだった。当時の社交界には、このようなことばが数多く存在していた。

リストと同じ年に生まれたフランスの作家、テオフィル・ゴティエの「レ・ブフは劇場であると同時にサロンでもある」ということばに、社交界の人々が、この劇場に込めた愛着がうかがえる。

（浦久俊彦『フランツ・リストはなぜ女たちを失神させたのか』による）

（注） 1 箴言集——格言を集めた書物。

2 エスプリ——フランス語で「機知」の意味。

3 諧謔——ユーモア。面白みのある言葉。

問1 傍線部(1)「サロンで認められること」は、当時どのようなことを意味していたか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうち

から一つ選びなさい。解答番号は 11。

- ① サロンは、性別や身分を超えて人々が交流する、最先端の流行を求める場であったことから、そこで認められることは、次世代を牽引けんいんする才能の持ち主だとみなされることだった。
- ② サロンは、貴族を中心とする時代で重要な役割を担う人物が主宰するものであったことから、そこで認められることは、有力なパトロンを手に入れるということだった。
- ③ サロンは、高貴な身分の女主人が潇洒な邸宅に当時の重要人物を招く場であったことから、そこで認められることは、社交界の仲間入りを果たすということの意味していた。
- ④ サロンは、ヨーロッパの文化や歴史を作る舞台となっており、社交界と同等にみなされていたことから、そこで認められることは、一流の太鼓判を押されたも同然だった。
- ⑤ サロンは、復古王政下で最盛期を迎え、王政の消滅と共に消えていったものであったことから、そこで認められることは、何よりも貴族好みの趣味であることを示していた。

問2

傍線部(2)「それは軽率だ、といわねばならない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 12。

- ① ポンパドゥール侯爵夫人のようにサロニエールとして成功することは、国王の愛妾になることよりも、ずっと難しいことだったから。
- ② 当時、夫の肩書きや身分がそのまま女性の価値であったので、ポンパドゥール侯爵夫人に現代のような悪女のイメージはなかったから。
- ③ 当時、女性であるポンパドゥール侯爵夫人が握った権力は、並大抵の才能や努力によって手に入れられるようなものではなかったから。
- ④ 当時、国王の妻という女性の最高位に就くには、ポンパドゥール侯爵夫人のように、サロニエールとしての成功が最低条件だったから。
- ⑤ 悪女というイメージはポンパドゥール侯爵夫人の一側面に過ぎず、実際にはそのイメージを覆す多くの才能を隠し持っていたから。

問3

傍線部(3)「噂やゴシップのような、いつけん取るに足らないようなものでも、彼女たちの感性は、ひとつの文化に仕立てたのである」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13。

- ① サロンに出入りする女性は、知性と教養を備えており、つまらないテーマは事前にふるいにかける嗅覚があったということ。
- ② サロンに集う女性たちは会話術や社交術を知性と教養に満ちたものにし、現代に受け継がれる文化にまで高めたということ。
- ③ サロンでは、女性たちはサロン専用の会話や社交を行うようになり、それが当時の社会で流行となっていたということ。
- ④ サロンにおいて、女性たちは出所のわからないあやしい情報を手し、もってもらしい尾ひれをつけて世間に吹聴ふいちょうしたということ。
- ⑤ サロンに集う女性たちは、賢くそして慎重であって、物事の判断を他人任せにすることなく納得するまで話し合ったということ。

問4

傍線部(4)「たとえば、劇場である」とあるが、「劇場」が「サロンの趣味が発揮される場所」といえるのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① イタリア座はイタリア語のオペラを、オペラ座はフランス語のオペラを中心に上演しており、出入りする客層も違っていたものの、いずれも着飾った貴族たちが出入りする界限にあったから。
- ② イタリア座はより洗練されたマナーを具えた通人たちが集い、オペラ座はそれより砕けた場であったものの、二つの劇場がある界限は音楽を楽しむ人々の社交場として機能していたから。
- ③ イタリア座が移転を繰り返した末にオペラ座の近くに建てられたことで、オペラ座とイタリア座へ通う客たちがその界限に集うようになり、さびれた場所が急に賑わうようになったから。
- ④ イタリア座が当時のパリでもっともエレガントな劇場とされているのに対して、隣接するオペラ座には粗野で礼儀を知らない客が出入りしており、その対照性が文化の多様性を示していたから。
- ⑤ 値段に比例して、イタリア座では遅刻や鑑賞マナーに関して厳しい規則があったのに対して、オペラ座ではそれがあたりまえのように許されており、それ相応の客同士が交流することになったから。

問5

空欄

X

にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

15。

- ① ことば遊びを装ったフランス人としての焦燥感
- ② 自由で軽妙なことば遊びに隠された人々の皮肉
- ③ ことばの響きによって呼び覚まされる人々の危機感
- ④ ことばの背景にある意味を理解できる人々の暗号
- ⑤ いかにも貴族らしい思いがりを示している象徴

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

- ① 十九世紀はじめに存在していたサロンには、小規模なものと大規模なものと二種類があった。
- ② 十九世紀のパリのサロンは、王政復古という新体制の国王の号令によって生まれたものであった。
- ③ リストやショパンは、パリのサロンにおいて政財界の大物たちの後押しを得たことで有名になった。
- ④ 十九世紀のサロンは、男性優位の社会にあつて、女性たちが自由を謳歌^{おおか}することができるところであつた。
- ⑤ サント＝ブーヴは、サロンに集う女性たちについて、ひとつのテーマでしか会話をしないと揶揄^{やゆ}した。

三

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

神々は、どんな場所に降りてくるのだろうか。

どこかの岩の上。あるいは、人の手で掃き清められた清浄な場所。

そういう場に、神々は降りてくると古代の人々は考えていた。だから神社のような永続的な建物はずっと日本の神道には存在せず、まつりのたびに人々はその場に神に降りてきてもらい、そこでさまざまな儀式を行っていたのだ。今のようないくつかの神社の建物は、後世のものである。仏教が伝来し、仏像を納める巨大な寺院を建立するようになったことが神道に影響を与え、立派な社を生み出す結果になったのではないかととも言われている。

(1) この神社の建物を表す社という言葉も、非常に興味深い。

民俗学者の折口信夫は「古代では、神は、杜や山に祀られた」「古代に遡ってゆけば、建て物のある神社はなかったと思う」と書き、こう続けている。

「やしろは、家代と言うことに違いない。しろは、材料ということであるから、家そのものではなく、家に当たるもの、家と見なすべきものということである。（中略）神の社というのは、今見る社ではなく、昔は所有地を示すのには、縄張りをして、野を標めた。そこには、他人が這い入ることも、作物をつくることもできなかった。神のやしろというものも、神殿が出来ていたのではなく、空地になっていながら、祭りのときに、神の降りる所として、標の縄を張って、定めてあるところを言う。その縄張りのなかには、柱が立ててある」（「古代人の思考の基礎」一九二九年）

つまりやしろは、建物を指すのではなく場所を指していたのだということを折口は言っているのだ。神々はいたるところに遍在する存在で、そこに意図的に空白の場所「しろ」をつくっておけば、そこに神がやってくるというのだ。つまりは、神社は神社の建物そのものが神々しいのではなく、その中心に神がやってくる空白の何もない空間がつけられていることが神々しいのだ。

神社の中心は、何もないからつぽの空間である。だからといって私たち日本人はその空つぽを勝手に神様だと勘違いしてお参りしているのではなく、その空つぽの空間に神が舞い降りてくるのを信じて、だからこそ神社の前で手を合わせてお祈りするのである。

こういう神様のまつりかたは、何も日本だけのオリジナルというわけではない。

たとえばイスラム教。仏教やキリスト教とは違って偶像崇拜を禁じていて、だから教会（モスク）の中心には神様や預言者の像などはいっさい置かれていない。ただメッカの方角を指し示すミフラーブというくぼみがあるだけだ。

メッカの中心にある神殿カアバも同じで、中には偶像などはいっさいない。構造物と言えば、東の角に大きな黒曜石がはめ込まれているだけだ。これは預言者イブラヒムが建立した際、天使が運んできたと伝わっている石なのだ。

イスラム教徒にとってのカアバは、祈る対象ではない。あくまでも神との間で会話するための、その会話の伝送路となっているのがカアバという建物である。そういう意味合いなのである。

(2) これは日本の神道の発想ときわめて似通っている。でもイスラムでは神は唯一絶対であるのに対し、日本の神々は八百万やおよろずもいるという大きな違いがある。

そして日本の神々は、いろんな場所をふわふわと浮遊している。そして人間が身を清めて一心に祈ると、目の前に用意されている「空白」の場所へと舞い降りてきてくれるのだ。

それが日本の神社の原初の形態だった。

そして三輪山(注) みやまのふもとにある檜原神社ひばらは、この原初の形態を今に伝えている数少ない社なのである。

檜原神社は、三輪山の山中奥深くにある巨石群をご神体かみづまにひもにしていて、三輪鳥居の奥には神籬ひもつぎと呼ばれる神様がやってくる場も用意されている。だから本殿も拝殿もいらない。いつときはつくられていたこともあるが、江戸時代に台風でこれらの建物が壊れてしまった後はいっさい再建されず、古代の姿に戻ったまま現在に至っている。

このような社は、日本のあちこちに残っている。本州だけではない。

たとえば沖縄の御嶽うたき。東方にあるニライカナイという海の彼方かなたの異世界から、神はやってくる。その神が来訪する場所としてまつられている。

御嶽のなかでも観光名所と知られているのは、斎場御嶽だ。沖縄本島の南東の突端、島がカギ上に東に曲がったその先の森の中。駐車場に車を置いて、観光案内所のようなところで入場料を払い、深くて濃い緑の森の中を歩いて行くと、やがて巨大な岩石を無造作に立てかけたような場所に突き当たる。

十数メートルもありそうな巨大な鍾乳石、そこに別の大きな板状の鍾乳石がもたれかかっている、その間はV字の暗い洞門の空間になっている。これが三庫理と呼ばれる礼拝所だ。

洞門をくぐると、光が射す不思議な場所にたどり着く。ぽっかりと開いたそこからは海が見え、その先には久高島が見える。琉球のはじまりをつくったといわれる創世の女神アマミキヨが降臨した、聖地として名高い島だ。

この三庫理の洞門のなかにたたずんでいると、とても不思議な気持ちになってくる。礼拝する「相手」のようなものはそこには存在しない。ただ静謐な空間が広がっているだけなのだ。

そしてしばらく後に、あることに気づく。何かを礼拝するのではなく、Xであり、その「相手」のただ中に今自分が立っているのだということに。

⁽³⁾ つねに神は空白の場所にやってきて、しかし姿は見えず存在も認識できない。私たちはそこにたぶん神がやってきてくれているのだろうと信じ、その「ただひたすら信じること」をたったひとつの頼りとして古代から宗教心を養ってきたのだ。

だから沖縄の御嶽にも、檜原神社と同じようにご神体も本殿も拝殿も、建物は何もない。鳥居さえももとはつくられていなかった。

ただその「場」を用意する。それこそが私たち人間のできる唯一のこと、というのがもともとこの日本列島の島々の信仰心だったのだということなのだ。

そもそも日本では、神は八百万であり「つねにそこにいる存在」としてとらえられてきた。全知全能の一神教ではなく、無数の神があちこちに漂っているような、そういう存在形態。

たったひとりの全能の神が、すべての場所に同時に存在しているわけではない。日本の神は蝶かなにかのようにふわふわとあちこちと飛び歩いている、小さくなったり大きくなったり、自由自在にこの空間の中を遊び歩いているというようにイメージされている。「米粒のなかにも

七人の神」という表現もある。これは米粒のなかに神がつねにいるということではなく、神は時には小さくなって米粒のなかに入り込んでいることさえある、という意味なのだ。

「山の神」や「海の神」という言葉も。

これは山や海そのものが神とされてきたと同時に、山や海のいたるところに目に見えない精霊としての神がいるという意味でもある。その神はウミヘビやサメ、オオカミといった動物のかたちをとることもあり、さらにはもっと大きな天上の太陽や月や風や雷や火もすべて神であると考えられていたのだ。

さらにはこういう自然界だけでなく、人の生活に関係のあるような場所。たとえば用水路が分岐する場所とか家の門戸、畑をつくる土地にも精霊がいる。さらには食物そのものにも神がいるし、人の血にも神がいるとさえ考えられてきた。

だから神をまつる神社は、つねにそこに座っている神をまつる固定化されたものではなく、そこに空白をつくって神を呼び寄せる場所として機能してきたのである。

この何もない空間、空白こそが、「絶対」にほかならない。

この「絶対」は、空白であるがゆえに傷つけられず、汚されることもない。

この空間がたとえば何かの偶像とか構造物であつたりすると、それはいずれは盗まれたり、傷つけられたり、経年変化で汚れたりしてしまう。しかし空白は何もない空間であるがゆえに傷つかず、永遠に無垢^{むく}のまま存在しつづけることができる。空白であるがゆえに、強い存在。⁽⁴⁾ そうやって「絶対」はますます、その絶対性を強固にしていくという構造になっているのだ。

(佐々木俊尚『「当事者」の時代』による)

(注) 三輪山——奈良県にある山。古来、神の山として信仰の対象であった。

問1

傍線部(1)「この神社の建物を表す社という言葉も、非常に興味深い」とあるが、筆者は「社」についての折口信夫の叙述から、どのようなことを述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 17。

- ① 社とは、かつては建物ではなく、居場所の定まらない神を呼び込む空白の場所を指していたことから、神社を信仰の対象とするのは誤りだということ。
- ② 社とは、もとは建物の一部あるいは材料を指し、姿の見えない神の仮の居場所だったことから、神社は神がいる期間のみ信仰の対象になるということ。
- ③ 社とは、本来は空白の場所であり、気まぐれな神々と人間が交信できる唯一の場所だったことから、神社が次第に信仰の対象となったということ。
- ④ 社とは、建物の概念を示し、あまねく存在しながら姿の見えない神々を象徴したことから、神社は神のいない空白の状態でも信仰の対象だったということ。
- ⑤ 社とは、つねにそこにいる神をまつる神殿ではなく、そこに神が舞い降りるために用意された、何もない空白の場所を指しているということ。

問2 傍線部(2)「これは日本の神道の発想ときわめて似通っている」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～

⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① くぼみや石という自然物を神に見立てて信仰の対象としている点で、イスラム教と日本の神道には相通じるものがあるということ。
- ② 信仰の対象として、くぼみや石といった質素なものしか持っていない点で、イスラム教は日本の神道とよく似ているということ。
- ③ 偶像崇拜を批判し、空間や場所といった抽象的なものに神を見いだすという特徴が、イスラム教にも日本の神道にもあるということ。
- ④ 偶像崇拜を行わないイスラム教の、人間が神と交信する場所が限定されている点が、日本の神道との共通点であるということ。
- ⑤ 偶像崇拜を禁じられたイスラム教の、祈りの空間で神と会話するという在り方が、日本の神道と酷似しているということ。

問3 空欄 X にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 19。

- ① 礼拝する「相手」と同化するのがこの空間
- ② 礼拝する「相手」に出会うのがこの空間
- ③ 礼拝する「相手」そのものがこの空間
- ④ 礼拝する「相手」から学ぶのがこの空間
- ⑤ 礼拝する「相手」を感知するのがこの空間

問4

傍線部(3)「つねに神は空白の場所にやってきて、しかし姿は見えず存在も認識できない」とあるが、日本における神のとらえ方についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

- ① 八百万の神が、人間の周辺につかず離れず存在しており、人間一人一人の感じ方次第で見え方が異なってくるというとらえ方。
- ② 八百万の神が、世界のあらゆるところに、決まった形は持つことなしに浮遊するような状態で存在しているというとらえ方。
- ③ 人間が触れる、あらゆる事物の中にさまざまな神が存在しているが、人間が証明することは不可能な存在というとらえ方。
- ④ 多くの神が、世界中にあまねく存在しており、姿を現すことはないが、人間をつねに見守り感化しているというとらえ方。
- ⑤ 雑多な宗教の神が混在しており、人間を含むあらゆる事物は何らかの神の支配に属し、その恩恵を受けているというとらえ方。

問5

傍線部(4)「そうやって『絶対』はますます、その絶対性を強固にしていく」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

- ① 空白は形がないために「絶対」で永遠不変に穢^{けが}れなきものであり続けることで、その絶対性は強化されるということ。
- ② 空白は神を内部に迎えることで「絶対」のものとなり、神の絶対性によってその絶対性も強化されるということ。
- ③ 空白は無であるという「絶対」を内部に有しており、そこに呼び込まれた神がその絶対性を強化するということ。
- ④ 空白は無垢であるという「絶対」の価値を有しており、人間の神への祈りがその絶対性を強化すること。
- ⑤ 空白は存在の否定により「絶対」性が確立して神の不在が確信されることで、その絶対性が強化されるということ。

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 22。

- ① 古代の人々は、まつりのときにだけ神々と交信していたため、神社のような建物を必要とはしなかった。
- ② 古代の人々の神に対する考え方は、伝来してきた仏教に影響を与え、日本独自の寺院が建立されるに至った。
- ③ 三輪山の檜原神社は、日本の神社の原初の形態を保つために、あえて本殿や拝殿の再建がなされなかった。
- ④ 沖縄の斎場御嶽にある礼拝所は、聖地である島を臨む場所にあり、巨大な岩石を信仰の対象としている。
- ⑤ 檜原神社や御嶽は、もとは建物は何一つ存在せず、神が降りてくるための場所だけが用意されていた。

2024 年度 新潟医療福祉大学

一般選抜（前期日程）

【2月2日(金)】

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は24ページから成っています。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気づいた場合は、その場で静かに手をあげて試験監督者に知らせてください。
4. 解答はすべて解答用紙の解答記入欄にマークしてください。問題冊子に記入したものを解答として提出することはできません。
5. 解答用紙には、氏名、解答科目、受験番号を正しく記入してください。解答科目は、解答科目欄の「国語」にマークしてください。これらが間違っていると解答が無効となりますので、十分注意してください。
6. 解答には必ずHBの黒鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。ボールペンや万年筆等は使用できません。

一

次の(1)～(7)の傍線部にあてはまる漢字を選びなさい。また、(8)～(10)の文の意味として正しいものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 10。

(1) 体内を血液がジュンカンする。

- ① 順
- ② 潤
- ③ 准
- ④ 循
- ⑤ 巡

(2) 大物を釣ったのでギョタクを取る。

- ① 卓
- ② 拓
- ③ 宅
- ④ 択
- ⑤ 託

(3) ネンポウの高いスポーツ選手。

- ① 放
- ② 報
- ③ 宝
- ④ 邦
- ⑤ 俸

(4) ダンガイ絶壁に立つ。

- ① 害
- ② 崖
- ③ 蓋
- ④ 涯
- ⑤ 慨

(5) サンバシに船が近づく。

- ① 参
- ② 傘
- ③ 栈
- ④ 蚕
- ⑤ 算

(6) 優勝者にシハイが授与される。

- ① 自
- ② 士
- ③ 諮
- ④ 詞
- ⑤ 賜

(7) シャショウが駅名をアナウンスする。

- ① 承
- ② 掌
- ③ 照
- ④ 詔
- ⑤ 焦

(8) 彼は、休日に近所の公園を掃除する奇特な青年だ。

① 彼は、休日に近所の公園を掃除する風変わりな青年だ。

② 彼は、休日に近所の公園を掃除する信念を貫く青年だ。

③ 彼は、休日に近所の公園を掃除する感心な青年だ。

④ 彼は、休日に近所の公園を掃除する優しい青年だ。

⑤ 彼は、休日に近所の公園を掃除する目立ちたがり屋な青年だ。

(9) 彼女は、幼い兄弟が仲よく遊んでいる光景を目にして相好を崩した。

① 彼女は、幼い兄弟が仲よく遊んでいる光景を目にして泣きそうになった。

② 彼女は、幼い兄弟が仲よく遊んでいる光景を目にしてっこり笑った。

③ 彼女は、幼い兄弟が仲よく遊んでいる光景を目にして嫌そうな顔をした。

④ 彼女は、幼い兄弟が仲よく遊んでいる光景を目にして意地悪そうな顔をした。

⑤ 彼女は、幼い兄弟が仲よく遊んでいる光景を目にして驚いた顔をした。

(10) 不倶戴^{ふぐ}天の敵と出くわした彼は、緊張で顔がこわばった。

① 大胆な態度をとる敵と出くわした彼は、緊張で顔がこわばった。

② 戦を避けられない敵と出くわした彼は、緊張で顔がこわばった。

③ 正体のつかめない敵と出くわした彼は、緊張で顔がこわばった。

④ 非常に憎んでいる敵と出くわした彼は、緊張で顔がこわばった。

⑤ 絶対にかなわない敵と出くわした彼は、緊張で顔がこわばった。

一一

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

AIが大きな注目を集めている背景には、コンピュータの性能が急速に発達したこと、インターネットの普及で膨大なビッグデータが取得しやすくなったこと、深層学習（ディープ・ラーニング）などコンピュータの学習方法が飛躍的に進化したこと、などがあります。AIは膨大な資料やデータを読み込み、分析や学習を繰り返しながら、日々進化を遂げています。非常に複雑な計算もあつという間にこなすことができます。それゆえにAIは、企業の活動はもちろん、私たちの雇用の在り方そのものを大きく変えてしまう可能性を秘めているのです。

製造業の現場で自動化された工場のほかにも、AIはすでに様々な分野で活用され始めています。AIがとりわけ効率化を促すのは、事務などの単純作業の分野においてです。工場での作業を効率化するために、ロボットを導入が加速化しているのと同じように、⁽¹⁾日本企業のオフィスでも、作業を自動化するソフトの利用が広がり始めています。

パソコンを使ったデータ入力などの繰り返し作業を担うのが、「ロボティック・プロセス・オートメーション（RPA）」と呼ばれるソフトで、通称「ロボット」と呼ばれています。たとえば、様々なデータをインターネットなどから拾って集計・グラフ化するという反復作業があります。が、あらかじめロボットに作業の手順を覚えさせておけば、人が犯しがちなミスを防ぐことができ、作業速度は10倍、20倍といった具合に格段に速くなるのです。

金融業や保険業ではとくに、AIが活躍できる余地が大きいといえます。メガバンクのなかには、すでに窓口の業務において、AIが来店客との会話の内容を分析し、適切な受け答えをするロボットを導入しているところもあります。銀行や保険会社のコールセンター業務においても、AIが顧客との会話を分析しながら、最適な回答を探し出すオペレーター支援システムが導入され始めています。顧客からの問い合わせ内容に応じて、AIは過去に学習した数万件の回答事例から最適な答えを瞬時に導き出すため、オペレーターは分厚いマニュアルを調べる必要がなくなり、従来よりも短時間で対応できるうえに、顧客の満足度も上げられるというわけです。

金融業におけるAIの積極的な活用は、窓口やコールセンターといった業務だけでなく、与信^(注)や融資に関する業務、振り込み確認、クレジツトカードの不正検知など、多岐にわたって進んでいくことが確実な情勢にあります。たとえば、金融業の中核業務である与信や融資においては、これまで従業員がその金額によって数時間から数日かけて審査していましたが、AIがビッグデータを分析すれば1秒以内で判断することがで

きるので、審査時間を極端というべきレベルまで短縮することが可能となります。金融業ではAIの導入が加速することによって、生産性を大いに高めると同時に、大幅な人員削減を進めることができるというわけです。

AIによる与信や融資で先行する、⁽²⁾ 中国のIT大手アリババのグループ銀行では、個人商店の運転資金の融資はすべてスマートフォンで完結する仕組みとなっています。スマートフォンから融資の申請するのに必要な時間は数分程度、AIが融資の審査や融資可能額を1秒もかけずに判断し、審査が通った場合は希望融資額が電子決済サービス「アリペイ」の口座に数分で振り込まれるというのです。

アリペイとは中国の人々の90%超があらゆる消費に使っているスマートフォン経由の電子決済サービスのひとつで、AIが融資判断に用いているのはアリペイから得られる膨大な決済データです。膨大なビッグデータから100以上の予測モデルを解析し、資金回収の確率を民間銀行よりも大幅に引き上げることに成功しているのです。

日本の金融機関では人員削減のために、AIが他の業界に比べて積極的に使われていくことになるでしょう。現に、みずほフィナンシャルグループは2024年度末までに傘下の銀行500店舗のうち100店舗を削減し、2026年度末までに1万9000人の人員を削減すると発表しています。三菱UFJ銀行は2023年度末までに516店舗のうち最大100店舗を自動化し、6000人の人員を削減するといっています。三井住友フィナンシャルグループも2019年度末までに銀行の全店舗で自動化を推進し、4000人分の業務量を削減するといっています。

日本の金融機関は欧米の金融機関に比べて人件費などのコストが高く、生産性の改善が課題となっているといわれて久しいですが、これからはAIを搭載したコンピュータやロボットが生産性を大幅に引き上げるのとは裏腹に、賃金が高い金融機関の雇用を破壊していくという趨勢^{すうせい}が避けられないでしょう。

金融機関と同じく、保険会社も人員削減の余地が大きいいえます。最近のアメリカでは、⁽³⁾ AIを活用して人手を必要としない保険会社の起業が増えています。生命保険にしても自動車保険にしても、加入手続きから保険金の支払いまで、スマートフォンのアプリを通したやり取りだけで完結するというサービスが広がり始めているのです。AIやビッグデータを駆使することで、保険料の見積もりや保険金の支払いを迅速にするというのが最大のメリットであり、スマートフォンで簡単な質問に答えるだけで数分のうちに保険に加入できるという手軽さがことのほか受けています。賃金が伸びていない若い世代を中心に、人件費などのコストを徹底的に抑えた割安な保険商品への人気度は高まっているということです。

そればかりか、顔を見れば寿命がわかるという技術を開発したベンチャー企業までが現れています。機械学習を重ねたAIがたった1枚の顔写真から、性別や年齢、かかりやすい病名、寿命までを割り出すことができるのです。アメリカではすでにこのベンチャー企業のサービスを使い、顔写真から生命保険料の大まかな見積もりをする生命保険会社があるといえます。

また、別のベンチャー企業では、AIが初期診断と健康管理を行い病気を防ぐというサービスを開発し、そのサービスの導入を考えている生命保険会社もあります⁽⁴⁾。これらの事例が示すように、AIの技術力でコストを抑えることによって、保険料を大幅に下げることができれば、より多くの人が保険に加入できるようになるでしょう。

そのうえ、AIは手間がかかる自動車保険の保険金の支払い手続きでも活躍しています。スマートフォンのアプリで事故現場の写真を送信すると、保険金の支払額の見積もりが数分でできてしまうのです。従来は1ヵ月程度かかっていた保険金の支払いが、1週間以内で完了できるまでになったといえます。

アメリカの大手の保険会社でも、新しく起業した保険会社の手法やベンチャー企業の技術を貪欲に取り入れて、できるかぎりすべての業務を簡素化して、コスト削減につなげる取り組みを進め始めています。これからの保険会社の経営目標は、店頭の窓口や保険の勧誘、対面の手続きなどをできるだけ省き、業務にかかる人件費を抑えることになってくるでしょう。

日本の保険会社では今のところ、AIの利用は単純な事務作業やコールセンター業務の一部にとどまっていますが、遅かれ早かれアメリカでの流れが日本にも波及し、AIやビッグデータ分析を駆使して業務を効率化し、保険料を下げていくという方向性が固まっていきそうです。保険料が下がる消費者にとっては好ましいことかもしれませんが、

X

は決して無視してはいけません。

(中原圭介『日本の国難 2020年からの賃金・雇用・企業』による)

(注) 与信——相手を信用し、後払いで取引を行うこと。

問1

傍線部(1)「日本企業のオフィスでも、作業を自動化するソフトの利用が広がり始めています」とあるが、具体的にどのように利用されているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 11。

- ① 銀行や保険会社の窓口やコールセンター業務において、AIが会話から顧客の求める答えを適切に導き出すことで、会社や従業員に対する社会的な信用度を上げる。
- ② 銀行や保険会社の窓口やコールセンター業務において、AIが顧客に対応することで従業員並びに顧客のストレスを軽減し、離職率の低下とクレームの減少を図る。
- ③ 銀行や保険会社の窓口やコールセンター業務において、AIが顧客との会話を分析して適切な受け答えをすることで、作業効率及び顧客の満足度を上げる。
- ④ 銀行や保険会社の窓口やコールセンター業務において、AIが会話を分析することで従業員と顧客の仲立ちをし、スムーズなやりとりと業績の向上を実現する。
- ⑤ 銀行や保険会社の窓口やコールセンター業務において、従業員がAIが分析した顧客情報を活用することで、顧客との間に起こりうる問題を未然に防ぐ。

問2 傍線部(2)「中国のIT大手アリババのグループ銀行」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 12。

- ① 融資の審査において、スマートフォン一つで手続きが完結し、AIによる正確かつ公平な判断がなされるようになっていいる。
- ② 融資の審査において、AIがアリペイのビッグデータを活用することで、従来よりも顧客に有利な資金の調達が可能になっている。
- ③ 融資の審査において、AIが融資の審査を簡略化することで、個人商店の運転資金の調達がスムーズに行われるようになった。
- ④ 融資の審査において、アリペイと業務提携を行うことで迅速な対応と市場の拡大が可能になり、新規事業参入の元手を作った。
- ⑤ 融資の審査において、AIがアリペイのビッグデータを活用することで、時間短縮と資金回収の確率の向上を実現させた。

問3 傍線部(3)「AIを活用して人手を必要としない保険会社」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 13。

- ① AIとビッグデータを駆使して顧客に必要な商品を提案するほか、スマートフォンのアプリを用いてアフターケアも行っている。
- ② 手続きのすべてをスマートフォンで完結することができ、保険金の支払いが迅速であるのと同時に、割安な商品を販売している。
- ③ 保険に関心の薄い若年層をターゲットにし、スマートフォンで簡単な質問に答えればよいという、手軽で割安な商品を販売している。
- ④ 保険に対して抵抗を持つ若年層に対して、スマートフォンのアプリでのやりとりを通して保険に関する疑問などに答えている。
- ⑤ AIやビッグデータを活用することで、保険料の迅速な支払いを求めている人々を探し出し、ピンポイントで営業を行っている。

問4 傍線部(4)「AIの技術力でコストを抑える」とあるが、二つのベンチャー企業の例で述べられていることの説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 生命保険料の見積もりにおいて培ったノウハウを、他事業のサービスに応用する。
- ② 生命保険料の見積もりにおける人員削減を目的として、AIに単純作業を代替させる。
- ③ 生命保険料の見積もりにおいて、AIに膨大なデータの中から顧客に最適な商品を探させる。
- ④ 生命保険料の見積もりにおけるAIの活用で手続きを簡略化し、サービスを安価に提供する。
- ⑤ 生命保険料の見積もりにおいて手間のかかる業務をAIに担わせ、人件費を削減する。

問5 空欄 X にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 単純作業に関わる人々の雇用が確保できなくなるという矛盾
- ② 賃金が低い部類の雇用が全面的に廃止されるという宿命
- ③ 保険会社が必要な人材を確保できなくなるという暗黒面
- ④ 賃金が高い部類の雇用があまり必要なくなるという副作用
- ⑤ 保険会社の利潤が低く抑えられてしまうという負の連鎖

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

- ① AIはビッグデータを読み込み、分析や学習を行うことによって、人間の知性に匹敵する能力を備えるようになった。
- ② AIを導入することによって単純作業における効率化が進み、企業の活動や人間の雇用の在り方に変化が訪れている。
- ③ 「ロボット」は需要の変化を先取りして、インターネットなどから集めたデータを正確かつ迅速に集計・グラフ化する。
- ④ 金融業と保険業においてAIの導入が進んでいるのは、マニュアル化が可能な作業が大半であったことが理由である。
- ⑤ 日本の金融機関及び保険会社は、アメリカに比べてAIの導入に遅れが見られる反面、人員削減のスピードが速い。

三

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。向側の座席から娘が立って来て、島村の前のガラス窓を落した。雪の冷気が流れこんだ。

（川端康成『雪国』、一九四七）

有名な書き出しの文章ですが、目の前に情景が浮かぶように書かれ、汽車に乗っている人がつぎつぎに立ち現れる現象を観察して報告しているように読めます。特に最初の「……雪国であった」は、思いがけずに眼の前に展開した雪国を、感動して見ている意識の表出です。この「雪国」ということは、書いている本人しか厳密には特定できないものです。作者に親しい人でなければ、このトンネルが群馬（上州）から新潟（越後）へ抜ける国境にある長い汽車のトンネル（清水トンネル）で、その先に湯沢という温泉地があることは、判らなくて当たり前なのです。このトンネルを経験するには、新幹線ではなく、上越線に乗らなければなりません。その出口には、現在土樽駅があり、そこが昔の「信号所」だったのです。それほど個人的な体験とことばが連動しているのが、日本語名詞の意味です。そういう特別な「モノ・コト」だということは何となく感じて、ぼくたちは小説（のみならず、一般に他人の文章）を読んでいます。

つまり日本語では、すべてのことばの意味は、厳密には、話し手・書き手でなければ判らない「主観」性を、他人とのコミュニケーションの問題点として抱えていることになります。日本語は、古代のやまとことばから現代語まで、本質的に言って、話し手（語り手）の視点しかないのです。日本語話者個人の頭の辞書に書き込まれた意味は、即座に他人とシェアできるものではありません。受け取り手は、その真意が知りたければ、発話者のオリジナルな体験を追体験するほかありません。

これはたとえば、芭蕉が歩いた「奥の細道」を歩いてみることで、『奥の細道』に書き込まれた名詞（動詞・形容詞など）の意味を自分のものにもしようとすることです。実際そうした「踏査」を専門の研究者は、これまでも続けてきていますし、普段ぼくたちは、それに近い「体験学習」を、さまざまな状況のもとで、知らず知らずのうちにやっています。

（2）「同じ釜のめしを食う」（あるいはなんであれ、他人と行動を共にすること）が、お互いのコミュニケーションの基盤となって、いろいろな共

同作業が成功する例を、日本人ならみなよく知っています。その共通の経験によって、お互いの頭に書き込まれた語彙の互換性を保とうとするわけです。しかし、日本語の語彙の意味づけが、印刷され市販されている辞書ではなく、個々の日本語話者の頭の中に書き込まれた「辞書」にあるということが、個人的にも、あるいは共同作業の場でも、特殊な運用を可能にするわけで、そのことが日本文化を性格づけてもいるのです。そこでは、ある一人の感性がいままでになかった高いレベルを達成したり、信じられない発見をしたりする可能性の場となりうるのです。ここには、西欧語では考えられないような、⁽³⁾「世の刷新に役立つ」日本語の特性がひそんでいると、ぼくは感じています。この本の目的の一つは、読者のみなさんの感性を啓発して、「新しい冒険」に挑んでいただけるように、ぼくが日本語や日本文学に見つけたことを、ぼくの視点として記述することです。

日本語の特性のもう一つが、⁽⁴⁾やまとことばの「形容詞」とよばれる、話し手による、日本語独特の「モノ・コト」への反応のことばです。『雪国』の冒頭文にある「長いトンネル」の「長い」は、発話者の感性が、汽車で通り過ぎていく「トンネル」が「長い」と感じたという意味です。現実を認識する意識が、通り抜けているトンネルを感覚的に捉えた結果です。同様に、「夜の底が白くなった」では、「白くなった」と感じる意識の存在が明らかです。

これまでは、日本語の情緒を表現することば、たとえば「うれしい・かなしい」のように、主に「シク」活用といわれて区分けされる形容詞だけが別格のように説明されてきました。たとえば、「わたしは」うれしいと言えても、「太郎はうれしい」が非文法である、というようにです。それは「うれしい」という感情が、本来話者の表現に特化しているからだ、というのが今までの説明だったのですが、感情形容詞だけが別格であるはずがなく、^(注)ひとしなみに、ふつうの形容詞が、「長い」も「白く」も話者の感性の発露なのです。ですから、そう発話する話者の「視点」から、対象となるモノが「長い」とか「白く」とか感じれば、その表現に他人が口を挟む余地がないと言えます。ということはまた、発話の内容は、あくまでも発話者の「主観」であり、「長い」も「白く」も、西欧語の辞書が定義して、西欧語の話者がその定義を無視して発話することが許されないような「客観性」をもっていないことにもなります。

また、さきほど「……雪国であった」には、感動して雪国を見ている書き手の意識があると言いましたが、末尾の「た」（中略）をとり去れば、「雪国である」となります。「である」は、ほぼ「だ」という、話者の「判断」を表出する「助動詞」に還元されます。ですから、この文の書き

手が「雪国」と現実を認識したことを、文の終わりに「確認」する表現と言えるでしょう（学校文法では、この「ダ」を「断定の助動詞」と呼んでいます）。一般に、「AはBだ」と主題を提示して「判断」する文が、日本語の構文（syntax）の基本構造ですから、ここにやまとことばが「主観的」であるという根拠もあります。

このようにみえてくると、日本語が「話し手の、話し手による、話し手のための言語」であることを、ほぼほとくの「仮説」とする基盤ができました。これを明証することが、ぼくのここからの仕事ですが、「ダ」（断定）以外の助動詞や助詞も「話し手の立場」から使われることを、簡単に確認しておきましょう。

たとえば「る・らる」（現代語「れる・られる」という、「自発・可能・尊敬・受身」を意味する助動詞は、さきに言及したように、日本語で一番重要（英語の〈be〉動詞のよう）なことば、「あり」（現代語の「ある」）を流用しています。現象が「ある」か「ない」か（ありやなしや）が、一番初めに大事な認識の「判断」基準であることが、この動詞「あり（ある）」が「助」動詞として使われる理由です。ちなみに、「なし（ない）」は「形容詞」ですから、「あり」と言い「なし」と言って X わけです。ですから、「あり」という動詞そのものが話者による「存在」の認識であることから、日本語が話者の認知の言語であることが判るでしょう。

現象が自然発生するとき、気づいたらもう実現しているような現象に、この助動詞「れる・られる」が使われます。たとえば「思う」という動作が自然発生したときは、「思われる」（古語は「思はる」）ですし、「生む」なら「生まれる」（古語は「生まる」）です。また、「自発」と「可能」とは、意味の上で地続きの領域なので、「労せずにする」ことが「可能」の意味をもたらして、話者自身が特に努力せずにできる動作なら、「^{おほ}憶えられる」・「着られる」などと使い、近年の「ラ抜きことば」なら、「憶えられる」・「着れる」といったところ です。さらに、話者から見て尊敬に値する人の動作は、「自然発生」的で、何事も「可能」であるという「オールマイティー」性が、「尊敬」に値するという意味で、たとえば目上の人が「話す・書く」は、「話される」「書かれる」などと使います。もう一つ、話者が何らかの被害を被って「受身」の立場を余儀なくされる表現は、自動詞の「死ぬ」を（父に）死なれる、あるいは「来る」を（忙しいところに）来られる などと使いますが、もちろん他動詞ならどんな動作にも適用可能です。ここでも、「れる・られる」の、一見バラバラに見える四つの用法のいずれも、話者の「視点」からの表現だということが言えますから、日本語が「話し手の言語」である証拠にもなるわけです。

(注) ひとしなみに——同様に。

問1 傍線部(1)「そういう特別な『モノ・コト』だということを何となく感じて、ぼくたちは小説(のみならず、一般に他人の文章)を読んでいます」

とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 17。

- ① 小説の中の「モノ・コト」は、文脈によって事実とは異なる点が生じるということを承知して、読者は小説を読んでいるということ。
- ② 小説の中の「モノ・コト」についての解釈は、自分に委ねられることを当然の権利として、読者は小説を読んでいるということ。
- ③ 小説に描かれた「モノ・コト」は、文学的な装飾を施され美化されていることを踏まえて、読者は小説を読んでいるということ。
- ④ 小説に書かれている「モノ・コト」は、個人的経験に根ざす作者の感性の発露だと知りながら、読者は小説を読んでいるということ。
- ⑤ 小説に登場する「モノ・コト」は、作者の頭の中で創作された架空のものであると理解して、読者は小説を読んでいるということ。

問2

傍線部(2)「日常的に自分の頭の辞書をヴァージョン・アップしています」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① 日本語は話者の視点しかない言語なので、他者のことばの意味付けを理解するために、他者の体験を追体験し、共通の経験によって理解の幅を広げていっているということ。
- ② 日本語は話者の表現を正確に理解しようとすれば、受け取り手は自らも話者の立場に立って、その内容を自分なりの表現に改めるという作業が必要になってくるということ。
- ③ 日本語の話者が用いていることばの意味は、受け取り手によってねじ曲げられてしまうことがあるが、話者と対話を重ねることによってそれを修正することが可能になるということ。
- ④ 日本語は話者の表現の特徴を知り、それを理解するという作業を繰り返し行うことによって、他者も話者と同じレベルの表現者となることができるようになるということ。
- ⑤ 日本語の話者が用いていることばの意味は、時代と共に変化するものであるため、時代を隔てた話者のことばに対して、受け取り手は考証が不可欠になるということ。

問3 傍線部(3)「『世の刷新に役立つ』日本語の特性」とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の

うちから一つ選びなさい。解答番号は 19。

- ① 曖昧なまま使用されることばの意味が、コミュニケーションを通して新たな思想を生じさせるもの。
- ② 使用する人によって異なることばの内実が、コミュニケーションを通して文化を高度に進化させるもの。
- ③ 一方通行なことばを用いた不自由なコミュニケーションを通して、語彙を豊かにしていくもの。
- ④ コミュニケーションを通してことばの意味を理解することで、集団の親和性を高めていくもの。
- ⑤ ことばの意味について、異なる立場から議論を重ねることで、文化に対する関心や理解を深めるもの。

問4 傍線部(4)「やまとことばの『形容詞』とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 20。

- ① 「モノ・コト」を文脈から際立たせることばであり、受け取り手の解釈を助けるもの。
- ② 「モノ・コト」から発せられる擬人的なことばであり、話者の主観が加わったもの。
- ③ 「モノ・コト」への反応のことばであり、使用法によって表す意味が異なるもの。
- ④ 「モノ・コト」に対する話者の主観的な感想であり、客観的な定義をもたないもの。
- ⑤ 「モノ・コト」に備わった話者の理解を示し、受け取り手の感情を揺さぶるもの。

問5

空欄

X

にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

21

。

- ① 話者の判断が現象を錯乱する
- ② 話者の感性が現象を弁別する
- ③ 話者の意図が現象に先行する
- ④ 話者の意思が現象に反映する
- ⑤ 話者の理解が現象を歪曲する

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

22

。

- ① 川端康成の『雪国』に描かれている内容は、一見写実的な描写のようだが、実際には作者による意図的な省略がある。
- ② 日本語を使った文学作品を鑑賞することとは、そこには書かれていない情報を補いながら読むということである。
- ③ 情緒を表現する形容詞は、第三者の情緒を表すことが不向きであるという点から、ほかの形容詞とは区別されてきた。
- ④ 「……雪国であった」は、「……雪国である」に還元でき、「雪国」が書き手の中にだけ存在することを表している。
- ⑤ 一見バラバラに見える四つの用法を持つ「れる・られる」という助動詞が、日本語の特徴を最も如実に表現している。

2025 年度 新潟医療福祉大学

一般選抜（前期日程）

【2月4日(火)】

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は24ページから成っています。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気づいた場合は、その場で静かに手をあげて試験監督者に知らせてください。
4. 解答はすべて解答用紙の解答記入欄にマークしてください。問題冊子に記入したものを解答として提出することはできません。
5. 解答用紙には、氏名、解答科目、受験番号を正しく記入してください。解答科目は、解答科目欄の「国語」にマークしてください。これらが間違っていると解答が無効となりますので、十分注意してください。
6. 解答には必ずHBの黒鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。ボールペンや万年筆等は使用できません。

一

次の(1)～(7)の傍線部にあてはまる漢字を選びなさい。また、(8)～(10)の文の意味として正しいものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 10。

(1) モンピを固く閉ざす。

- ① 秘
- ② 碑
- ③ 卑
- ④ 扉
- ⑤ 否

(2) 悪人のドクガにかかる。

- ① 画
- ② 餓
- ③ 芽
- ④ 瓦
- ⑤ 牙

(3) 中国にあるフンキユウを訪ねる。

- ① 朽
- ② 丘
- ③ 臼
- ④ 宮
- ⑤ 久

(4) 剣道のケイコをする。

- ① 恵
- ② 掲
- ③ 稽
- ④ 詣
- ⑤ 憩

(5) 傷がエンショウを起こす。

- ① 鉛
- ② 遠
- ③ 縁
- ④ 炎
- ⑤ 延

(6) メイドの土産として秘密を明かす。

- ① 冥
- ② 迷
- ③ 銘
- ④ 鳴
- ⑤ 明

(7) タンザクに願うことを書く。

- ① 柵
- ② 削
- ③ 冊
- ④ 作
- ⑤ 策

(8) 彼はメンバーが全員そろったところで、やおら話を始めた。

① 彼はメンバーが全員そろったところで、慌てて話を始めた。

② 彼はメンバーが全員そろったところで、ゆっくりと話を始めた。

③ 彼はメンバーが全員そろったところで、堂々と話を始めた。

④ 彼はメンバーが全員そろったところで、唐突に話を始めた。

⑤ 彼はメンバーが全員そろったところで、すばやく話を始めた。

(9) 台風の襲来に、畑の作物が心配でまんじりともせず夜を過ごす。

① 台風の襲来に、畑の作物が心配で全く眠ることなく夜を過ごす。

② 台風の襲来に、畑の作物が心配でうとうとしながら夜を過ごす。

③ 台風の襲来に、畑の作物が心配で気持ちを高ぶらせて夜を過ごす。

④ 台風の襲来に、畑の作物が心配で何も手につかないで夜を過ごす。

⑤ 台風の襲来に、畑の作物が心配でただ一人きりで夜を過ごす。

(10) 兄は昨年の夏に、人事不省に陥ったことがあった。

① 兄は昨年の夏に、行方がわからない状態に陥ったことがあった。

② 兄は昨年の夏に、意識を失った状態に陥ったことがあった。

③ 兄は昨年の夏に、家に引きこもった状態に陥ったことがあった。

④ 兄は昨年の夏に、非常に忙しい状態に陥ったことがあった。

⑤ 兄は昨年の夏に、物事に打ち込んだ状態に陥ったことがあった。

一一

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

十九世紀のフランスは、社会に向きあい、それを全体として理解し改革しようとした多くの思想家を生んだ。その一部は、サン・シモンやフーリエ、ブルードンなどの社会主義者ないし社会思想家であったし、別の一部は、コントからル・プレイ、デュルケームにいたる社会学者であった。十九世紀のドイツが、シェリング（一七七五―一八五四）やヘーゲル（一七七〇―一八三一）に代表される観念論哲学の世紀であったとすれば、おなじ世紀のフランスは社会思想の世紀であったといっても間違いではない。

この時代のフランスに多くの社会思想家が出現した理由は何であったか。そして、かれらは社会についていかなる理解をもたらし、その理解は社会の何を変え、人間の意識の何を変えたのか。それをここで取り上げていこう。

社会思想家の輩出の理由として第一に考えられるのは、前世紀末からの ⁽¹⁾ フランス革命の経験である。貴族からブルジョワジー、民衆、農民にいたるさまざまな社会階層を主体として成立した革命は、その後のフランス人の意識に深い刻印をきざんだ。革命を評価するにせよ批判するにせよ、世界で最初にすべての人間の自由と平等を謳った「人権と市民権の宣言」を公布したその歴史的経緯は、いまなおフランス人のアイデンティティの一部になっているといっても過言ではない。

「国民、法、王」をスローガンとしてはじまった運動が、「自由、平等、友愛」へと変わり、ついには王の処刑と対外戦争の開始、大量殺戮の恐怖政治とその反動としてのナポレオンの皇帝就任、さらにはヨーロッパ全体の支配とその後の敗北へとつづいた激動の過程は、だれにも予測できないものであっただろう。しかし、その経過をあとから振り返るとき、それは壮大な社会的実験以外のなものでもなかった。王制、寡頭制、共和制、人民支配といった政治体制の変化だけでなく、街頭運動と国会討議、対外戦争と国民意識、中央と地方、農民と都市民など、革命は社会を構成するさまざまな関係性を白日のもとにさらしたのであり、それにより社会を考えるための素材をふんだんに提供したのである。

それに加えて、それらの関係性の変化や政治体制の変化は、X だとの認識を与えたはずである。国民国家の建設が遅々として進まず、民主政体を建設できなかったドイツで観念論哲学が盛んであったのに対し、フランスで社会思想家が輩出したのはおそらくそこに理由があった。かれらはみずからのアイデンティティの一部になっている革命についての評価を明確にするためにも、社会についての問いを欠かすことができなかったのである。

それだけではない。⁽²⁾ 十九世紀はフランスにとって産業革命の時代であり、社会と経済のあり方が根本から変わった時代であった。イギリスほど急激な変化を経験しなかったとはいえ、それはフランス社会のあり方、人びとの意識のあり方に大きく影響しなかった。光の面としては、ガス灯や鉄骨・ガラスを用いた建造物による都市景観の変化、鉄道や船舶の発達による行動範囲の拡大、コットンや砂糖などの植民地産品の普及と工業化などがあつた。それを通じて、人びとの生活の形態や意識は深いところから変わっていったのである。

光があれば影がある。革命による封建特権の廃止により、農村における土地の囲い込みが自由になり、大農地の所有者とそれに雇われる農業労働者という階級分化が全国的に進行した。また、職人ギルドによる独占の撤廃は、都市の職人や労働者の境遇をいちじるしく不安定なものにした。結果は、食うに食われぬ零細民が流れ込んだ都市人口の増大である。革命時には六十万でであったパリ市の人口は、一八三一年には約八十万、一八四六年には百万を超えたし、他の大都市であるリヨンやリールでもおなじ傾向が見られた。

十九世紀前半のプロシアの首都ベルリンについて、つぎのような記録がある。

ベルリンの工場の蒸気機関は、フリードリヒ・ヴィルヘルム四世（在位一八四〇―一六一年）の治世の最初の九年間に、三九二馬力をもつ二九台から、一二六五馬力をもつ一九三台に増加した。同じ時期に、娼婦^(注4)は一人に、犯罪者は一万二千人に、警察に届けていない^(注2)ルンペン^(注1)は一万二千人に、慈善を受けている者は六千人に、乞食^(注3)は四千人に、監獄および労働矯正所の収容者は三千人に達した。これにたいし、生活能力のある市民の数はわずかに二万人と計算されている。

⁽³⁾ ベルリンの「能動」市民ひとりがふたりの娼婦や犯罪者を養っていたというのである。多少の誇張はあると思われるが、それにしてもそれはそのままこの世紀のパリその他の大都市の实情であつた。十九世紀前半に活躍した歴史家・政治家であるギゾーの時代を描いたピエール・ロザンヴァロンによれば、「社会が粉々になり、以前の社会的紐帯^(注4)が解体し、社会的なものが分解した」との意識が、この時代の文筆家に共通した意識であつたという。こうしたかれらの直感的理解は事実によって裏付けされていた。一八三〇―四〇年代にはパリでも各種の貧困者の調査がおこなわれたが、ウジェーヌ・ビュレの^(注5)一八四〇年の調査によれば、フランス人のなんと三人にひとりが扶助を受けていたというのである。

このような貧困者の増加は、予想されるように社会秩序に深刻な影響を与えないではなかった。エンゲルス（一八二〇―一九五）が『イギリス

における労働者階級の状態』で詳述したような生活環境の極端な悪化であり、幼児死亡率の増大とコレラをはじめとする疫病の流行、幼児労働を含む労働条件の苛酷化、犯罪の増加などの社会問題の急増である。また、そうした生活環境の悪化に対する労働者の抵抗も増加する一方であり、フランスの諸都市では革命と戦争の混乱がようやく収まった一八二〇年代から、生活と労働の条件の改善を求める労働争議や暴動がくり返して生じている。

このように、⁽⁴⁾貧困とそれに付随する都市環境の悪化がだれの目にも明らかであったとすれば、為政者の側でもそれへの対策が痛感されていた。貴族の家に生まれ、知事をつとめたのちに研究者となるヴィルヌーヴ・バルジュモンは、すでに一八三四年に貧困についてつぎのように語っている。

貧困——大衆的貧困という新しくも哀れな名前で呼ばれている——は、人口のあらゆる階層に広がっている。「略」赤貧は、もはや偶然ではなく、社会の大部分に強いられる条件である。そうだとすれば、我々はもはや、広範に見られる苦痛の徴候、社会の構成のあり方の奥深くに生じている問題、より重大で恐るべき混乱へのきざしを、見過ごすことはできない。

貧困が「社会の大部分に強いられる条件」であると認識されたとすれば、個々のケースごとの対応ではなく、社会のあり方そのものの問い直しが必要になるはずである。フランスにおける貧困等の社会問題に対する公的対応を歴史的にたどった田中拓道の^(注6)浩瀚な研究^(注7)によれば、貧困は一八三〇年代までには個人的な怠惰や過失の問題ではなく、システムそのものの問題としてとらえられるようになっていた。

(竹沢尚一郎『社会とは何か』による)

(注) 1 ギルド——親方、職人、徒弟から成る商工業者の特権的同業団体。

2 ルンペン——ここでは、浮浪者の意。

3 ピエール・ロザンヴァロン——一九四八。フランスの歴史家・政治学者。

4 紐帯——二つのものを、かたく結びつけるもの。

5 ウジェーヌ・ビュレ——一八一〇—四二。フランスの経済学者。

6 田中拓道——一九七一。日本の政治経済学者。

7 浩瀚——書物の分量が多いこと。

問 1

傍線部(1)「フランス革命の経験」とあるが、それはどのようなものだったのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 11。

① あらゆる社会階層の人びとが加わることによって成立したフランス人の意識に深く刻印された革命であり、未成熟な社会が生まれては消えるという経験から、人びとの社会に対する期待を失わせたもの。

② さまざまな階層の人びとが主体となって行われたフランス人のアイデンティティそのものと言える革命であり、それに伴う予測不可能な社会の変化が人びとを不安に陥れたもの。

③ 階層を問わぬ人びとが参加したフランス人のアイデンティティの一部を形成する革命であり、政治体制や社会構成の変化が起こって、人びとに社会に対する関心をもたらしたもの。

④ すべての人間の自由と平等が約束された画期的な革命であったが、それによって人間の欲望が解放され、政治体制の変化と共に社会に深刻な分断と対立意識をもたらしたもの。

⑤ 世界でも類を見ないすべての人間の自由と平等を謳った革命であったが、政治体制が目まぐるしく変化したことから、人びとに社会におけるみずからの立場を痛烈に意識させたもの。

問2

空欄

X

にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

12

。

- ① 社会が為政者のものではなく、構成者すべてに所有する権利のあるもの
- ② 社会が不動のものではなく、人びとの意識と行動によって変わりうるもの
- ③ 社会がいずれも不完全であり、人びとの期待に応えることのできないもの
- ④ 社会が多面的なものであり、とらえかた次第で違った様相を呈するもの
- ⑤ 社会が流動的なものであり、為政者はその経過において必ず衰退するもの

問3

傍線部(2)「十九世紀はフランスにとって産業革命の時代であり、社会と経済のあり方が根本から変わった時代であった」とあるが、産業革命でどのように変わったのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

13

。

- ① 近代化が進み、人びとの生活や意識に変化がもたらされた一方で、生活環境や労働条件の悪化によって多くの困窮者が都市にあふれた。
- ② 人びとの生活環境や様式が文化的になった一方で、農業や産業が衰退し、職を求めて多くの労働者たちが都市に流れ込んだ。
- ③ 都市の人びとの生活が便利で自由になった一方で、地方との貧富の差が膨らみ、多くの人びとが都市に集まることになった。
- ④ 一般市民が便利で文化的な生活を享受するようになった一方で、労働者は職を失い、階級分化が深刻化して都市の治安が悪化した。
- ⑤ 都市の景観や生活レベルが向上した一方で、人口の急激な増加によって労働者があふれ、職に就けない者が大勢出るようになった。

問4

傍線部(3)「ベルリンの『能動』市民ひとりがふたりの娼婦や犯罪者を養っていた」とあるが、どのようなことを表しているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 社会が機能せず、責任感の強い市民が貧困者の面倒を見る事態になったということ。
- ② 都市にはさまざまな階層の市民があふれ、新しい秩序が生まれつつあったということ。
- ③ 社会の構造に変化が生じたために、市民が安心して暮らせなくなったということ。
- ④ 社会の構造が壊れ、ふつうに暮らせる市民より貧困者が多くなったということ。
- ⑤ 社会の構造がゆがんだために、市民が起こす暴動が増えていったということ。

問5 傍線部(4)「貧困とそれに付随する都市環境の悪化」は、どのように受け止められたか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の

うちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 貧困は純粹に個人の問題だったが、貧困者の数が増加したために、富裕層である貴族が取り組むべき課題になった。
- ② 大衆が貧困に陥り、その原因が社会のあり方に求められるようになり、為政者の質や社会制度が疑問視された。
- ③ 貧困者個人に帰する問題ではなく、社会そのものの欠陥による事態ととらえ、社会そのもののあり方が問われた。
- ④ 貧困者の共通項が検討され、救済システムを社会に組み入れることができれば、都市環境や社会が安定するとした。
- ⑤ 貧困は社会全体の問題であるため、社会の各層が一致団結して、新たな対策を講じる努力をすべきだとした。

問6 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

- ① 十九世紀のフランスは、ドイツに先んじて、社会に対する理解と改革を目指す思想家を輩出した。
- ② 十九世紀のドイツでは、国民国家と民主政体の確立のために必須の観念論哲学が盛んであった。
- ③ 十九世紀のフランスとドイツは、政治体制の違いから、社会に対する認識にも大きな差があった。
- ④ 十九世紀のフランスでは、貧困者の増加によって社会問題が急増し、労働争議や暴動が頻発した。
- ⑤ 十九世紀のフランスでは、労働条件の改善を訴える労働者たちの運動によって、社会が混乱に陥った。

三

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

グレッグという人物は「たいがいのウェブサイトに表示される、あの手の迷惑なバナー^(注1)広告の制作にあたる」広告代理店のために、その広告の設計者として働いていました。かれによれば、バナー広告の制作販売をしている企業は、すべて基本的に「詐欺」です。代理店がもっている調査結果からは、ウェブ閲覧者がそれをクリックすることなどほとんどないらしいのですね。でも、代理店は、広告の効果にかんするデータを粉飾したり、広告効果を巧みにプレゼンしたりして、クライアントにはそれをごまかしています。グレッグはこういつてます。

ほとんどの場合、金払いの良い顧客^(注2)は、自社のテレビCMをバナー広告の内部で再生させたいといって、複雑なストーリーボードと一緒に、複数「シーン」や必須事項を要求してきます。自動車関連の顧客がやってきたのですが、^(注3)フォトショップを使って、サムネイル大の画像^(注4)なのに、ハンドル位置を修正したり燃料タンクキャップを移動したりするよう要求してきました★BSJ

こんなクライアントの要求にも、グレッグは応じねばなりません。そんなことをしても、別にバナーのクリックが増えることはないことは百も承知で、です。ただ、それにはなんとか耐えていたグレッグですが、先ほどの代理店の保持する調査結果、ほとんどだれもクリックしてないという調査結果を目にしたとたん、やる気を失います。それどころか、精神的に病んでしまいます。それでかれは結局、転職することになりました。

その仕事で、無意味さはストレスを悪化させるということがわかりました。それらのバナー制作をはじめたときは、そのプロセスに耐えていました。ところが、その作業が、程度の差はあれど、意味がないものだということに気づいてしまうと、忍耐力はどこかへ霧消してしまいました。認知的不協和——結果に意味のないことがわかっているのに「気にしないふりをして」その過程に実際に参加していること——を乗り越えるには、努力が要るんです★BSJ

どうして、こうした楽勝のはずの仕事で多数の人が苦しんでいるのでしょうか？

ここでグレーバーの分析を確認したいとおもいます。

まず押さえるべき基本的ポイントは、人間が自己を獲得するその根源には、⁽¹⁾「原因となるよろこび」が存在するという発想です。『ブルシット・ジョブ』で、仕事に意味があること、実質があることを指す表現として「世界に影響を与える」という日本語があらわれているとき、原文ではたいてい「make a difference in the world」がそれに該当しています。直訳すれば、「世界にちがいをつくること」、じぶんのおこないが世界をちよつとだけ変えることです。

グレーバーはこの論点を、ドイツの心理学者カール・グロースからみちびきだしています。

グロースは、幼児がじぶんが予測できる影響を世界に与えられることにはじめて気づいたとき、ものすごくよろこぶことに気づきます。たとえば、じぶんがおもうままに腕をふりまわすと鉛筆が転がるとかそういうことです。そういえば精神分析家のジグムント・フロイトにも、毛玉を転がしてよろこぶ幼児のありようを「わたし」の形成の端緒にみなす議論があります。フロイトにおいては、それは、「いないいないばあ」遊びでした。つまり、受動的に母親の存在にさらされたただ翻弄されていた幼児が、みずからその存在を統制できる契機がその毛玉での遊びでした。じぶんで能動的に、いる、いないという状況をつくりだすのですから。だから、おそらくそれも、幼児がみずから世界に影響を与えることができる「原因としてのよろこび」ともいえるでしょう。そしてその積極的作用の出所として、自己が形成されるのです。

そこでは、くり返せるという契機が重要でした。精神の病の一種とされる強迫反復もそうですが、それはじぶんを原因として取り戻す懸命の試みでもあります。おなじように、グロースもおなじパターンの動作をもう一度おこなうことによって、同様の結果がえられることが重要であるといえます。グロースによれば、このみずからが原因となるよろこびを遊びの基礎とし、⁽²⁾「権」力 (powers) の行使は、もともとはその力の行使そのものが目的だと考えました。

なぜこれが自己の源泉になるかという点、そのなにか影響を与えたものが自己である、じぶんであると気づくからなのです。目の前の鉛筆が転がっている。そしてそれを転がしているのがどうやらここにある存在である、ということとは「わたし」が転がしているのである、と。そして、その気づきに幼児は歓喜するのです。わたしたちが、X、その存在の感覚の根源には、それ以降もずっと、この原因としてのよろこびが作用しつづけている。そうグロースはいいました。だから人は遊びに、幼年期のみならず、大人になっても、いつまでたっても熱狂するので

すね。それは、わたしたちの存在の根源にあるよろこびの発露なのですから。

ということは、十分に想像がつくとおもいます。ブルシットであること、「原因となれないこと」、世界に影響を与えることができないことは、自己の危機、自己の存立の危機なのです。実際に、グロースの実験では、こうした原因となる経験が途絶えてしまうと、「まず癩癩、かわりの拒絶、さらに、一種の緊張症状をとまなう世界の崩壊、そして外界からの完全な引きこもりがおこる」★BSJ。人生のなかの精神疾患の問題の背後に、この「失敗した影響のトラウマ」があると思なした別の精神分析家の分析も、グレーバーは紹介しています。

グロースは「原因となるよろこび」の理論から、演技メイクレリーとしての遊びプレイ「ごっこ遊び」の理論を構築します。まさに幼児が鉛筆を転がせる能力によるこびを感じるのとおなじ理由から、人はゲームや娯楽を発明するということです。わたしたちはみずからの力「権力」を、それ自体を目的として行使したいとねがっているのです。遊びとは、こうした純粋な力の行使です。そして、それは人間の最大の自由なのです。

⁽³⁾問題は、BSJが、このような遊びに似ているということです。それは仕事のための仕事、ほかに目的のないたわむれでもあるわけです。ところが、人はBSJのそのような要素に怒りをおぼえ、しばしば精神的につらさを抱えている。これはどういうわけでしょうか。これも、ここまで議論されると、すでにこう結論している人も多いとおもいます。

ただ働くことだけのために働くふりを強いられるのは屈辱である。なぜなら、その要求は、自己目的化した純粋な権力行使であると感じられる——正しくも——からである。かりに、演技メイクレリーの遊びが人間の自由のもっとも純粋な表現だとすれば、他者から課された演技メイクレリーの仕事は、自由の欠如のもっとも純粋な表現である★BSJ

自由の最高の表現である無目的な遊びが、他者から強制されると、それは不自由の最高の表現へと転化するのです。たとえば、奴隷主が奴隷たちに、格闘技をやるように命じます。もし自由にやったらただただ愉快である、たがいに技術や駆け引きをたのしむゲームは、ここでは奴隷主の気まぐれの力の行使にどこまでも従わねばならない、その権力の純粋な発現と服従のあかしになります。

BSJがなぜ、かくも多くの人に精神的暴力として経験されるのか、その理由をグレーバーは、こう分析するのです。

⁽⁴⁾グレーバーはここで、「筋書きの欠落」すなわち「スクリプトレス」という心理学的概念も提示しています。

わたしたちの悩みや葛藤は、それぞれ個別のものでかけがえないものです。とはいえ、おおよそそのような悩みに似たような悩み（職場でのいじめ、友だちとの借金をめぐる軋轢^{あつれき}、恋愛における三角関係など）はだれかが経験したものであり、さまざまに語られてきています。人生相談のようなものはそれに対するさまざまな経験を有した人間が処方箋を与えるという構造をとっていますし、人間の創作する物語のほとんどはそうした人間の抱える悩みや葛藤をめぐるとの注釈であり、考察であるともいえるかもしれません。そういう意味では、わたしたちがなにか世の中でぶつかって抱えるものごとには、少しおかしな言い方ですが、どういうふうに悩むべきか「悩み方」の指南があるわけです。もちろん、その悩み方を採用したからといって悩みが解決するわけではありません。しかし、とにかくもややもやには型が与えられるのです。ところがBSJにはそれがありません。どう悩んでいいか、わからない。

Amazon.comの『ブルシット・ジョブ』の販売ページのレビューの上位には、ある不動産業界で働く女性のものがあがっています。そこで彼女は、この本で、命が救われた、生きようとおもったといっています。問題を問題として特定するだけで、なにかぼんやりとしたもややもやを言い当てるだけで、このようなカタルシス^(注5)が生まれる場合があります。それはこうした人の悩みに悩み方を与えた、「悩んでいいのだ」という裏づけを与えた、ということに由来しているとおもわれます。

（酒井隆史『ブルシット・ジョブの謎 クソどうでもいい仕事はなぜ増えるか』による。）

出題の都合上、一部中略・改変した箇所がある。）

（注） 1 バナー広告——インターネット上で広告を掲載する、横長の画像。

2 フォトショップ——画像編集ソフトウェア。

3 サムネイル——インターネットサイトなどの内容を縮小表示した一覧。

4 BSJ——「ブルシット・ジョブ」の略字。ブルシット・ジョブとは、無意味で不必要な仕事、の意。アメリカの人類学者のデヴィッ

ド・グレーバーが提唱した。★BSJで示した箇所は、グレーバーが二〇一八年に公刊した書籍『ブルシット・ジョブ』からの引用。

5 カタルシス——哲学や心理学において精神の「浄化」を意味する。

問1 傍線部(1)「『原因となるよろこび』とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ

選りなさい。解答番号は 17。

- ① じぶんのおこないが他者の世界を少しだけおもしろいものに変えた際のよろこび。
- ② じぶんのおこないが世界を一変させてしまうような威力を発揮した際のよろこび。
- ③ じぶんが世界に起こる出来事についてある程度予測することができた際のよろこび。
- ④ じぶんが世界の中で意味のあるものとして存在していることを証明できた際のよろこび。
- ⑤ じぶんが世界に対して何らかの作用を及ぼすことができるとわかった際のよろこび。

問2 傍線部(2)「権」力(powers)の行使は、もともとはその力の行使そのものが目的だ」とあるが、どういうことか。その説明として最も

適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① 力の行使は、それをおこなおうとした時点で、じぶんと世界を結びつけるという目的の半ばを達成していることから、何らかの成果を求めるものではないということ。
- ② 力の行使は、それをおこなおうとするじぶんが「力の行使」だと認識することで成立することから、力の行使を受ける相手を必ずしも必要としないものだということ。
- ③ 力の行使は、それによって何かを得るというより、力を行使しているという事実によって、じぶんという存在を確かめることを目的としているということ。
- ④ 力の行使は、じぶんの意識とは無関係な、純粹に身体的な行為であって、それがなされた時点で完結する、何ら意味を持たない無為なものだということ。
- ⑤ 力の行使は、幼児がそれを行う場合に、反射的に何度も反復される行為となって現れることから、何かを目的として行われるのは最初の一回目だけだということ。

問3 空欄 X にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 19。

- ① 自他未分の段階にありながら、周囲から一個の存在として認められる
- ② 自他未分の段階を脱出して、周囲から一定自立した存在としてある
- ③ 自他未分の段階に没入して、じぶんと世界の間につながりを見い出す
- ④ 自他未分の段階に甘んじながら、じぶんの存在感を世界に示威する
- ⑤ 自他未分の段階を拒絶して、じぶんが世界を変えようという野心を抱く

問4

傍線部(3)「問題は、BSJが、このような遊びに似ているということです」とあるが、「BSJが、このような遊びに似ている」ことがなぜ「問題」だというのは。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

- ① BSJが単純な遊びと似ているということは、その仕事に従事する者はいかなる感情も持っていないはずだから。
- ② BSJが空虚な遊びと似ていることは、本来は気楽なはずのものから精神的暴力を感じるようになるから。
- ③ BSJが無意味な幼児の遊びと似ていることは、その仕事がかたらないものだということの証左になるから。
- ④ BSJが有意義なことを目的としない遊びと似ていることは、自由意志を他者に侵されていると思うはずだから。
- ⑤ BSJが幼児をよろこばせる遊びと似ていることは、その仕事から怒りを覚えることはおかしいことになるから。

問5

傍線部(4)「『筋書きの欠落』すなわち『スクリプトレス』という心理学的概念」とあるが、このことに関するグレーバーの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

- ① 悩みや葛藤とは比べものにならないほど、BSJの問題は複雑であるため、簡単に解決するというわけにはいかないだろう。
- ② 悩みや葛藤への対処法から類推するに、BSJの問題も似た立場の者と相談することで解決への糸口がつかめるはずだ。
- ③ 悩みや葛藤への対処法から学んだり情報を収集したりしているうちに、BSJの問題も解決に導くことができるはずだ。
- ④ 悩みや葛藤と同じように、BSJの問題も完璧な対処法は確立しておらず、おのおのが試行錯誤するしかない状況だ。
- ⑤ 悩みや葛藤とは違って、BSJの問題には有効な対処法がないため、つかみどころのないストレスを感じるようになる。

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

22

。

- ① グレッグという人物がしていた仕事は、「詐欺」に分類されるようなものであり、BSJの多くが似た性質を有している。
- ② グレッグという人物は、じぶんの仕事はBSJであると他者に指摘されたことで、精神的な苦痛を抱えることになった。
- ③ グロースが論じた、人間が自己を獲得する根源にあるものは、フロイトが幼児の遊びに見い出したものと同じである。
- ④ フロイトによれば、「いないいないばあ」遊びは、毛玉を転がしてよろこぶ遊びの次の段階に位置しているものである。
- ⑤ グロースやグレーバーによれば、幼年期にBSJに対する耐性を付け損なうと、自我を確立することも難しくなる。

2025 年度 新潟医療福祉大学

一般選抜（前期日程）

【2月5日(水)】

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は24ページから成っています。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気づいた場合は、その場で静かに手をあげて試験監督者に知らせてください。
4. 解答はすべて解答用紙の解答記入欄にマークしてください。問題冊子に記入したものを解答として提出することはできません。
5. 解答用紙には、氏名、解答科目、受験番号を正しく記入してください。解答科目は、解答科目欄の「国語」にマークしてください。これらが間違っていると解答が無効となりますので、十分注意してください。
6. 解答には必ずHBの黒鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。ボールペンや万年筆等は使用できません。

一

次の(1)～(7)の傍線部にあてはまる漢字を選びなさい。また、(8)～(10)の文の意味として正しいものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 10。

(1) ガクフに季節の便りを送る。

- ① 顎 ② 学 ③ 楽 ④ 額 ⑤ 岳

(2) ホウセイのよいスーツを購入する。

- ① 縫 ② 豊 ③ 褒 ④ 俸 ⑤ 芳

(3) 帝みかどのそばにシコウする。

- ① 支 ② 伺 ③ 司 ④ 使 ⑤ 賜

(4) ジョウシャ必衰は世の中の道理だ。

- ① 状 ② 剩 ③ 暈 ④ 盛 ⑤ 丈

(5) 準備していた資金がフッテイする。

- ① 抵 ② 底 ③ 遁 ④ 低 ⑤ 諦

(6) 片言セキクをも聞き漏らさない。

- ① 斥 ② 責 ③ 隻 ④ 析 ⑤ 惜

(7) 試みが失敗したことをイカンに思う。

- ① 汗 ② 寛 ③ 陷 ④ 憾 ⑤ 甘

(8) 彼女は私の申し出をにべもなく断った。

① 彼女は私の申し出をはっきりと断った。

② 彼女は私の申し出を何度も断った。

③ 彼女は私の申し出を迷いながら断った。

④ 彼女は私の申し出を軽蔑的に断った。

⑤ 彼女は私の申し出を無愛想に断った。

(9) その作品は展示会場の中で異彩を放っていた。

① その作品は展示会場の中で違和感を与えた。

② その作品は展示会場の中でよい評価を受けた。

③ その作品は展示会場の中で特に目を引いた。

④ その作品は展示会場の中で最も権威がある。

⑤ その作品は展示会場の中で最も人気が高い。

(10) もめごとは急転直下、解決に向かった。

① もめごとは時間の流れに従って、解決に向かった。

② もめごとはそれまでとはうってかわって、解決に向かった。

③ もめごとはよどみなく非常に順調に、解決に向かった。

④ もめごとは気づかないうちにひっそりと、解決に向かった。

⑤ もめごとは回り道をした後でようやく、解決に向かった。

一一

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

一枚の絵を見ることがから始めたい。

江戸時代中期に、南画家として数々の優品を描き残し、また、俳人として新しい句境を切り拓いた与謝蕪村の晩年の絵だ。絵に先立って蕪村自筆の漢字七文字の題字——「夜色楼台雪万家」——が書かれ、その上四文字に「図」の一字を書き加えて「夜色楼台図」と一般に呼びならわされている絵だ（別に「雪夜万家図」という呼びかたもある）。縦28cm、横129・5cmの和紙に描かれ、絵は横に長く伸びていく。

洋の東西を問わず、しあわせの情景を画面に写しとった絵画は少なくないが、蕪村のこの絵はしあわせを画面に写したというだけでなく、いや、しあわせを写したという以上に、しあわせとはなにかを考えさせる絵だといえることができる。

描かれるのは雪の降りつもった冬の夜の町並だ。晩年の蕪村が住んだ、身近な京都の町並に材を取ったものでもあろうか。墨の濃淡を巧みに使いこなすとともに、塗り残した白と黒との対比が鮮やかな水墨画で、ところどころに施された代赭色（注2）の淡彩が、そこに住む人の動きを伝えて情景にぬくもりをあたえている。

横長の画面を大きくとらえると、上部に黒ずんだ空、中間部分は雪をかぶって白く連なる山々、そして、下方が白と灰色の入りまじる家並、といった構成になる。家並は横長の画面に左右に長く列つらなるように描かれるが、中央部分では奥行きがやや浅く、そこから右へと向かい、また左へと向かって伸びるにつれて奥行きが増していく。画面の右から左へと視線を動かしても、逆に左から右へと視線を動かしても、暮らしの厚みがいったん疎まばらになったところから再び厚みを増していくという流れをたどることができる。二次元の平面としてその流れを追うと、右端のやや高いところからゆったりと左下方へと下りてきた曲線が、ちょうど真中あたりで向きを変え、ゆったりと左上方へ向かうといった流れとなる。左端のやや高いところから右へと逆に流れを追っても、なだらかに流れる家並の印象は変わらない。

(1) しあわせの感じは、なにより、このゆるやかな曲線の下に広がる家並のたたずまいからやってくる。雪の降りつもる冬に身を寄せ合うようにしてひっそりと並ぶ家々のすがたは、そういうところこそ暮らしのしあわせが宿ると思わせるのだ。夜なべ仕事の続いている家もあるろう。仕事を終えて団欒だんらんのひとときを過ごしている家もあるろう。寝仕度ねじたくを整えている家もあれば、もう寝静まった家もあるかもしれない。いずれにせよ、寄りそうようにして並ぶ屋根の下の暮らしは、いつに変わらぬ平穏な時がそこに流れていると想像され、そういう時の流れが人びとのしあ

わせの源だと感じられる。右に左に、手前に奥にと広がる家々のたたずまいは、あくまでも静かで平穏だ。どの屋根にも降りつもる白い雪が静かさと平穏さを守る自然の力として働き、人びとはそのもとでゆったりと安らいでいる。

なかに民家の屋根を越え出る楼台がぼつんと見え、窓に明かりがともる。そこに賑わいを感じられはするが、それが夜の静けさと平穏を破ることはない。賑わいのあることがかえって屋根の並ぶ民家の暮らしの穏やかさを印象づけるといえるほどだ。楼台の賑わいと華やかさを包みこんでこの町並には静かな平穏な時間が流れていると感じられる。

そして、町の人びとの穏やかな暮らしを守るかのように、町のむこうには雪をかぶった山が連なっている。太い稜線⁽²⁾で隈取られた山は上半分が白く雪に覆われ、下半分は町並に溶けているかのように灰色のぼかしが入るが、いつ見ても変わらぬそのすがたが、人びとの暮らしの安らぎのもととなっていることが思われる。何度も上ったり下ったりする山の稜線を、灰色の太い筆墨の線が途切れることのない一本の線をなして追っていくが、なだらかな線に示される安定感は、この山が画家の日常に見なれた身近な山であることを示している。そして、画家が山にたいして抱く親近感は、そのまま、この山のふもとの民家に住む人びとの親近感に通じているように思える。

が、町並と山に覆いかぶさる空は、なにやら怪しげな描かれかたをしている。平穏とはいえない。水墨のたらしこみでもって不定形の黒いかたまりがあちこちに出来、その上に雪の粒が浮いている。風雲急を告げるといふほどではないが、この空にはなにかしら不気味な雰囲気が見てとれなくはない。少なくとも、

X

ではない。

そういう空だが、その空が山々に守られた人びとの暮らしを押しつぶしたり壊したりはしない。黒っぽい空とその下に広がる白っぽい地上の世界とは矛盾するかのごとき対照を示しながら、危うく均衡を保っている。そして、荒れ模様の雪空の下でも静かで平穏な暮らしが続くのが庶民の世界なのだと思えてくる。そこにしあわせな暮らしの土台があると思えてくる。雪をかぶった屋根の下、静かな平穏な時の流れは、雪空の不気味さに耐えうるだけの厚みの具わったものだと思えてくる。

そう思えるとき、⁽³⁾わたしの脳裡には三好達治の「雪」と題する二行詩が思い浮かぶ。

雪

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。

次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。(『三好達治詩集』新潮文庫、一九五一年、18ページ)

蕪村の「夜色楼台図」に描かれたどこかの屋根の下に太郎が、そこからほど遠からぬ屋根の下に次郎が、眠っていると考えることになんの違和感もない。太郎、次郎は昔話や民話にもよく出てくるありきたりの名前だが、同じような家々の立ち並ぶ静かで平穏な暮らしにあっては、そういうごく普通の子どもの寝るすがたを想像することはいかにも似つかわしい。太郎も次郎も安らかに眠っているにちがいない。そして、眠る太郎や次郎のまわりには、太郎や次郎の眠りを乱すことのないひっそりとした時間が流れているにちがいない。絵に表現された暮らしのなかに子どものすがたを思い描こうとすると、うまく居場所の見つからないことも珍しくないが、「夜色楼台図」の世界は、そこにごく自然に子どもの居場所が見出^{みいだ}されるし、子どものすがたを想像することで暮らしに広がりゆたかさが増すような世界なのだ。

三好達治の二行詩と蕪村の水墨図とはなにからなまでに調和するわけではなく、雪の表現についてみれば、二行詩の雪は音もなく天から降りてきてしんと屋根につもる雪のごとくで、蕪村の絵の黒まだらな空は視野になかったと思われる。けれども、そう考えた上で改めて絵と詩を目の前に置いてみると、二つの作品に共通するものとして、人びとの暮らしに思いを寄せる作者の祈りのような心情が浮かび上がる。蕪村も三好達治も人びとの暮らしがしあわせであることを願わないではいられなかった。

二行詩に祈り、もしくは願いがこめられていることは、読後にたんなる事実の叙述とは質のちがう余韻がただようことをもって、その有力な証左とすることができる。詩人が太郎や次郎のすがたを愛情深く思い浮かべ、その子たちに安らかな眠りが訪れますようにと願っていることは疑いようがなく、その温かい情は読者の気持ちにも潤いをあたえる。

蕪村の絵からは、みずからの内にある人びとの暮らしの安らかなイメージを雪の夜の情景として画面に写しとろうと無心に筆を動かす老画家のすがたが思い浮かぶ。人びとの暮らしす家々は、楼台がそれなりに建物の体裁を整えているのとちがって、屋根だけが左右前後に列なる形で描かれるが、画家の心には、屋根の下建物の形が、そして、その建物のなかで営まれる暮らしのありさまが、身近なものとして思い浮かべられている。その暮らしのさまこそが蕪村の表現したかったものであり、左右前後に並ぶ屋根屋根の落ち着いたたたずまいは、人びとの暮らしの静

けさと平穏さをさながらに映し出すものだったのだ。

列なる屋根屋根を描きすすむときも、背後の山々を灰色のぼかしや太い稜線で造形しているときも、黒まだらの面に雪の粒の浮かぶ空を描いているときも、名もない人びとの日々の暮らしのさまが燕村の頭のどこかで思われていたろうが、家並と山々と空とが一体となった情景が一枚の絵として完成されたとき、暮らしの安らかさがそこに形を取ってあらわれていることに、⁽⁴⁾燕村はほかでは味わえない満足感を得たにちがいない。しあわせな気分の立ちのぼる絵は、絵を描き終えた画家にもしあわせを恵むものだったにちがいない。

（長谷川宏『幸福とは何か』による）

（注） 1 南画家——「南画」は、中国の「南宗画」^{なんしゅうが}（水墨による山水画）を日本風に解釈した絵画。絵画に、俳句や漢詩などを組み合わせる

場合もある。「南画」は「文人画」ともいう。

2 代赭色——やや明るい茶色。赤褐色。

3 三好達治——一九〇〇—六四。日本の詩人、翻訳家。

問1

傍線部(1)「しあわせの感じは、なにより、このゆるやかな曲線の下に広がる家並のたたずまいからやってくる」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 11。

- ① 身を寄せ合っている屋根屋根が、そこで暮らす人びとの仲の良さを表しており、その様子が孤独を抱える画家の羨望を否応なく照らし出してしまうということ。
- ② 寄りそうように並ぶ屋根の下で営まれているのは、穏やかで静かな暮らしであることが想像され、その落ち着いたさまがしあわせを感じさせるということ。
- ③ ひしめくように建っている家々が、何の変哲もない普通の暮らしを営んでおり、そのことを通じて画家が表現しようとした平和への祈りが感じ取れるということ。
- ④ 似たような家々のたたずまいが、ありふれた平凡な日常を想像させ、そのことが永遠に続く長い時間として感じられ、しあわせとは何かを考えさせるということ。
- ⑤ 変わりばえのしない質素な家々で営まれているのは、貧しい中で健気に生きている人びとの暮らしであり、その清らかなさまがしあわせを思わせるということ。

問2 傍線部(2)「雪をかぶった山」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 12。

- ① 画家にとって、日々に見慣れた身近なものであり、ふもとの人びとの暮らしにとっても役立っていることを想像させるものである。
- ② 画家にとって、ふもとの人びとの暮らしを支える頼もしいものであり、何度も通ったことによって親しみを覚えていいるものである。
- ③ 画家にとって、ふもとの人びとと渾然こんぜん一体いつたいとなって親しみを覚えさせるものであり、人びとの暮らしの平和を感じさせるものである。
- ④ 画家にとって、何度も描いてきたことで親しみの対象となっているものであり、ふもとの人びとへの親しみを増幅させるものである。
- ⑤ 画家にとって、第二の故郷として心のよりどころになっているものであり、見ることでなつかしさが得られるものである。

問3 空欄 X にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13。

- ① 静かで平穏な町並や山々と自然につながるといえるような空
- ② 画家渾身の町並や山々をいまにも飲み込んでしまいそうな空
- ③ 親近感のわく町並や山々を控えめに引き立てているような空
- ④ 身近で平凡な町並や山々とは真逆の雰囲気伝えるような空
- ⑤ 安らぎを与える町並や山々の背景に置くには惜しいような空

問4 傍線部(3)「わたしの脳裡には三好達治の『雪』と題する二行詩が思い浮かぶ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は 14。

を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は 14。

① 「夜色楼台図」は、詩で子どもたちが包まれている静けさが共通して存在し、また、画家の他の作品から、子どものすがたを思い描くことが容易な作品だから。

② 「夜色楼台図」は、詩と同様に雪が家にふりつもる光景を題材としており、また、そこに描かれているのが名もない子どもたちである点も共通している作品だから。

③ 「夜色楼台図」は、詩の中で安らかに眠る子どもたちのすがたのイメージを思い起こさせるものであり、また、もともと詩が絵画に影響を受けている作品だから。

④ 「夜色楼台図」は、詩に登場するような子どもたちの暮らしを想像することが似つかわしく、また、想像することで絵画の世界に奥行きが生じるような作品だから。

⑤ 「夜色楼台図」は、詩の中で描かれた普通の子どものたちが存在しているもおかしくなく、また、存在していたら絵画の価値がさらに高まったと考えられる作品だから。

問5

傍線部(4)「蕪村はほかでは味わえない満足感を得たにちがいない」とあるが、そのように言えるのはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 名もない人びとが生きた痕跡を残すという意図を、その家や背景から描き出すことに成功し、画家としての自負や手応えを得られたから。
- ② 狙い通りにしあわせを象徴する人びとの暮らしを、その家や背景を通して描くことができ、みずからもまたしあわせを味わうことができたから。
- ③ 何の変哲もない暮らしを送る人びとの様子を、その家や背景に至るまで正確に描き上げたことで、画家としての新たな境地を開拓できたから。
- ④ 平凡な人びとの暮らしぶりを、その家や背景に至るまで観察して描き出すことで、彼らが心からしあわせに生きていることがわかったから。
- ⑤ 人びとの静かで平穏な暮らしを一つの風景に切り取る中で、そういう暮らしこそがしあわせだと知り、みずからもそのしあわせに共感したから。

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

- ① 「夜色楼台図」は、画家の蕪村が実際に住んだ場所をモデルにしたと思われる立体感のある作品である。
- ② 「夜色楼台図」は、横長の画面に描かれた家並が左右に奥行きを感じさせる、流麗な線画となっている。
- ③ 「夜色楼台図」に描かれている楼台は、暗く静かな夜景を背景にしてそびえたつ、作品の見所の一つと言える。
- ④ 「夜色楼台図」に描かれている空は、地上と対照を成しつつも均衡を保ち、作品のテーマを損なっていない。
- ⑤ 「夜色楼台図」と三好達治の詩には雪の描かれ方の違いがあり、そこに詩人の理解の浅さが露呈している。

三

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

手元のスマートフォンのアラートに頻繁に喚起され、それに手を伸ばしてはチェックを繰り返す。⁽¹⁾ たとえば仕事の打ち合わせ中でも、である。そのアラートは、フェイスブック上で更新が生じたことやメッセージ受信のお知らせだ。また、仕事でパソコンに向かうことが多い職業だと、画面上でフェイスブックやツイッターに常につながったままの状態の人も少なくない。

ワシントン・ポスト紙の元スタッフ・ライター、ウィリアム・パワーズ（William Powers）氏は、自著の中で次のことを指摘している。

「心理学の知見によると、頭を使う仕事をやめて横から入ってきた用事に対応すると、感情や知覚はたちどころに肝心な仕事から離れはじめ、別件に長いあいだ気を取られていると、元に戻るのに要する時間も長くなるという。いくつかの推定によると、集中力を回復するのにかかる時間は中断時間の10～20倍にもおよぶこともある」（引用元…『つながらない生活 「ネット世間」との距離のとり方」有賀裕子訳）

あらためて言われてみると、身に覚えがある人も少なくないだろう。

パソコンに向かって上司への報告書を作成している。すると同じパソコン画面上で接続しているフェイスブックのニュースフィードにちょっとした目を見ると、友達の投稿がどんどん流れてくる。ちょっと一瞬のつもりでフェイスブックの投稿を眺める。いくつかの投稿を眺めてコメントをしたりで滞在5分。たった5分の寄り道だ。しかしどうだろう。作成中の上司への報告書に戻ったものの先ほどの投稿が頭にちらつく。「ああ、投稿にあったイタリアンレストランはよさそうだな。今度行ってみよう」。そんなことを頭の中でもやっと思いつきながら、作業を進める。そう、実は集中力という観点では、5分の寄り道では済まなくなっている。先のデータを基にすれば、集中力を回復するのに、下手したら中断時間である5分の10～20倍の時間を要することだってあるのだ。物理的にはたった5分でも、作業効率という観点ではなかなかのダメージだ。

この「⁽²⁾ なかなかのダメージ」についてはこんなデータもある。

BaseX（<http://basex.org/>）が2008年に行った推計では、情報過多により年間9000億ドルもの経済損失が生じているという。以降、ソーシャルメディアの利用者数と利用時間が飛躍的に伸びていることを考えると、現時点ではもっと多くの経済損失の源になっている可能性がある。みんなの「ちょっと一瞬」が積もりに積もると、経済損失という観点ではとんでもない数字に膨れ上がるという試算だ。これはもう、なかなか、
と言える次元ではない。

「友人からのSNSへのコメントやメールにすぐに返答しなくては、と思うとなかなか寝つけないんです」

SNSでのやりとりに没頭し、やめられなくなる「ネット依存」の悩みを抱えて医療機関にかかる人が増えている。スマートフォンやソーシャルメディアの普及がネットから片時も離れないという「新しい病」を生み出しているというのだ。

厚生労働省の科学研究費で行われた成人対象抽出調査（2008年）で、インターネット依存の恐れがあるとされたのは全国で推計271万人、子供の数を加えると500万人を超えていた。この調査以降、フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアの利用者が急増し、2012年の段階では5000万人を突破、加えてスマートフォンの普及も一気に進み、LINEのような新しいコミュニケーション手段も増えた。それにより、ネット依存症を訴える人の数や症状はより深刻になっている。

その多くがソーシャルメディア上のコミュニケーションにのめり込み過ぎて生活や仕事に支障をきたす。つながり依存だと言われている。日本でもフェイスブックが普及し始めていた2011年6月、フェイスブックに夢中になった滋賀県の主婦が、高熱を出していた1歳の息子を放置して死なせるという事件が起きて大きな議論を呼んだ。逮捕されたこの母親は調べに対し、「インターネットのチャットに熱中し、昼夜逆転の生活をしていた」と供述している。このような状況を受け、国立久里浜医療センターでは薬物と同様の依存性に着目し、専門の外来を開設し治療法の開発に着手している。

インターネット依存は、「自分の意思でインターネットの利用（時間）をコントロールできない」「常にそれに気を奪われる」「人にやめるように言われてもやめられない」「現実から逃避したい心理状況などにより、過度に利用してしまう」などの症状があり、日常生活に支障を及ぼす。これはまさに、薬物やアルコール依存にも近く、だいぶ深刻だ。

⁽³⁾ 程度の差こそあれ、自分もこの「新しい病」に罹患^{りかん}しているのではないかと？ と思われた方もいるだろう。

さらにこの依存性は、人間の精神面だけではなくその肉体にも影響を与え始めている。

長時間のパソコン作業やスマートフォンの使用が原因で、腱鞘炎^{けんしやうえん}に悩む人が増加している。マウスのクリックやキーボードのタイピングなど、決まった動作を何度も繰り返すことで手指の腱に炎症を引き起こす。反復運動過多損傷（RSI）を主な原因とする、「キーボード腱鞘炎」「マウス腱鞘炎」といわれる症状がそれだ。最近はスマートフォンの操作により親指を使い過ぎる人が多い。その結果、手首の親指側にある腱鞘が炎症を起こし、親指を伸ばすと痛みを感じるドケルバン病という症状に悩む人も続出している。

ビジネスマンが一日にキーボードを叩く回数を試算してみよう。ローマ字入力の場合で1文字あたり2回キーを叩くとする。一日に10通、メール1通あたりの平均文字数を200文字とすれば、400回×10通＝4000回。メール以外にも、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアに投稿したり、コメントを寄せたりする機会も増えているし、ビジネスマンであれば書類作成などで毎日万回単位でキーボードを叩いているはずだ。それに、スマートフォンでのフリック入力という新しい動作も加わっている。

⁽⁴⁾ かくいう自分に置き換えてみるとぞっとする。僕はパソコンとスマートフォン、それにタブレット端末を併用し、優に100通を超えるメールを毎日のようにやり取りしている。メール以外にも、大量の書類作成や原稿執筆を常態的に行っている。こまかいメッセージのやり取りは、スマートフォンでのフリック入力に対応する。これでは、「キーボード腱鞘炎」「マウス腱鞘炎」にいつなってもおかしくないという状態だ。フリック入力を大量に行うことで、親指の付け根の違和感も頻繁に感じているから他人事ではない。

デジタルは、大きな利便性を提供していると同時に、人間の心身に新たな病巣をもたらしてもいる。これも現実だ。

携帯電話で一日30分以上の通話^(注4)を5年間継続すると、脳腫瘍が発生する危険性が2～3倍に増えるとの調査結果をフランスの研究者がまとめたことを、AFP通信等の仏メディアが報じて(2014年5月13日付)話題になった。

2004～2006年に、仏ボルドーの公共衛生研究所(ISPED)が脳腫瘍の一種であるグリオーマや髄膜腫を患った約450人を調査したところ、他の健常者と比較し、携帯電話の利用が少ない人ほど脳腫瘍の発生が少ない傾向が認められたのだという。

調査をした同研究所のイザベル・バルディ(Isabelle Baldi)博士は、脳腫瘍の発生率上昇が携帯電話を最も頻繁に利用する人だけに確認されたことを強調し、Xを勧めている。

人間の活動の利便性向上に大きく寄与している携帯電話が、人間の脳に病巣をつくる道具にもなっているのだとすれば、なんと皮肉な話なのだろう。

(小川和也『デジタルは人間を奪うのか』による)

(注) 1 ツイッター——現在のX(エックス)。アメリカのX社が運営するSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)。

2 BaseX——大規模なXML(文章の見た目・構造を示す言語の一種)文書などの保管・照合などを行うデータベースシステム。

3 フリック入力——キーボードを上下左右に指で弾く入力方法。

4 通話——ここでは電磁波を放出する携帯電話を耳に当てて通話すること。

問1

傍線部(1)「手元のスマートフォンのアラートに頻繁に喚起され、それに手を伸ばしてはチェックを繰り返す」とあるが、このことについて、どのような問題が提起されているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 17。

- ① 仕事と遊びのように本来区別すべきことを同時に行うことで、意識の切り替えが以前ほど容易にはできなくなるという問題。
- ② 頭を使うことからそうではない別件に意識を切り換えることで、感情や知覚が乱れたり鈍くなったりしてしまうという問題。
- ③ 別件に対応することで、もともと行っていたことから意識がそれ、元の状態に戻るのに時間が費やされて非効率だという問題。
- ④ 集中している意識を中断され、別件に意識を向けさせられることで、仕事の質が著しく低下するという事態が生じるという問題。
- ⑤ 複数の物事に意識を分散することを何度も繰り返すことで、一つの物事に対して集中力が以前よりも続かなくなるという問題。

問2

傍線部(2)「なかなかのダメージ」とあるが、筆者はどのようなものだと感じているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① 一つ一つの損失は低レベルなものだが、それが雪だるま式に増えることでレベルが何段階も上がってしまうもの。
- ② 契機となったのが軽微なものなので損失も想定範囲内だが、それが蓄積されたために表現と見合わなくなったもの。
- ③ 一つ一つの損失が独立してなされているために、その一つ一つの程度が大きさが見過ごされがちであるもの。
- ④ 原因となるものの気軽さからは想像もつかないほど重大な損失で、単純なダメージには分類できない特殊なもの。
- ⑤ 一つ一つの損失は軽微なものであっても、全体の損失が非常に大きく、想像以上のダメージであるもの。

問3

傍線部(3)「程度の差こそあれ、自分もこの『新しい病』に罹患しているのではないか?」と思われる方もいるだろう」とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 19。

- ① ソーシャルメディアが魅力的なコミュニケーション手段であることは確かであり、ネット依存症の実例も耳にすることがあるから。
- ② ソーシャルメディアは急速に普及しており、多かれ少なかれそれに精神的な支配を感じている人は多いことが考えられるから。
- ③ ソーシャルメディアとネット依存症の親和性は高いとされており、利用者が罹患する可能性は高く見積もられているから。
- ④ ソーシャルメディアが未熟なコミュニケーション手段であることから、ネット依存症を未然に防ぐ手立てが講じられていないから。
- ⑤ ソーシャルメディアを使いこなすことは難しく、使いこなそうとしてその世界にのめり込み、精神的に支配されてしまうから。

問4 傍線部(4)「かくいう自分に置き換えてみるとぞっとする」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の

うちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

① 筆者がもし依存症であつたとしたら、日常的なパソコン等の使用によって肉体的な影響を受けるのは目に見えており、恐怖を感じずにはいられないということ。

② 筆者も依存症と言えてしまいそうな、日常的にパソコン等を使用する環境で生活していて、肉体的な影響を免れえぬことを自覚して恐れを覚えたということ。

③ 筆者も依存症とまでは言えないものの、日常的にパソコン等を使用する環境で生活しているので、その肉体的な影響を防ぐため生活を改める決意をしたということ。

④ 筆者も依存症同然であり、日常的なパソコン等の使用によって肉体的な影響が出始めているのに、生活を改める気にならない自分に驚いてしまったということ。

⑤ 筆者は依存症に理解があり、日常的にパソコン等を使用することの危険性を知っていたのに、肉体的な影響が出るほどそれらを使っていたことに愕然がくぜんとしたということ。

問5 空欄 X にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

① 電話での通話を一日に何分行ったかという時間の計測

② 電話での通話と脳腫瘍の発生との関係の解明

③ 電話を日常的に使用している人に対する脳腫瘍の検査

④ 電話を耳から離して通話するハンズフリー機器の使用

⑤ 電話の通話を完全に中止してメールを使用した連絡

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 22。

- ① 人は普通、仕事であつたとしても、スマートフォンのアラートを無視することはできない。
- ② 人は、仕事よりも魅力的なフェイスブックの投稿に対して、仕事よりも高い集中力を発揮する。
- ③ ネット依存症の患者は、他者と常につながりたい気持ちが働いているため、SNSを中断できない。
- ④ ネット依存症には、精神的な症状のほか腱鞘炎なども付随して起こり、処方は確立していない。
- ⑤ 人は、デジタルの使用によって、利便性と引き換えに心身へのダメージを負うこととなった。

2026 年度 新潟医療福祉大学

一般選抜（前期日程）

【2月4日(水)】

国 語

一

次の(1)～(7)の傍線部にあてはまる漢字を選びなさい。また、(8)～(10)の文の意味として正しいものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 10。

(1) 選手がタンカで運ばれる。

- ① 荷
- ② 佳
- ③ 貨
- ④ 稼
- ⑤ 架

(2) ユウモウカカンな行動をたたえる。

- ① 肝
- ② 敢
- ③ 款
- ④ 寛
- ⑤ 冠

(3) ようやくキュウチを脱する。

- ① 朽
- ② 嗅
- ③ 窮
- ④ 糾
- ⑤ 泣

(4) 恩師に自著をキンテイする。

- ① 謹
- ② 襟
- ③ 勤
- ④ 緊
- ⑤ 斤

(5) 事態をシュウシュウすべく努力する。

- ① 収
- ② 拾
- ③ 襲
- ④ 羞
- ⑤ 終

(6) 作品のコウセツを問わない。

- ① 撰
- ② 折
- ③ 窃
- ④ 接
- ⑤ 拙

(7) セイソのあるデータを使用しない。

- ① 狙
- ② 邇
- ③ 粗
- ④ 塑
- ⑤ 疎

(8) 彼も息子^{あだ}のことは徒やおろそかにすまい。

① 彼も息子のことは何度も繰り返しては考えていない。

② 彼も息子のことは思いつめては考えていない。

③ 彼も息子のことはいつもは考えていない。

④ 彼も息子のことはどうでもいいとは考えていない。

⑤ 彼も息子のことは核心に迫っては考えていない。

(9) 彼女は議論を吹っ掛けられても柳に風の風情である。

① 彼女は議論を吹っ掛けられても無視するように冷淡な風情である。

② 彼女は議論を吹っ掛けられても自然体で迎合的な風情である。

③ 彼女は議論を吹っ掛けられても居丈高で反発的な風情である。

④ 彼女は議論を吹っ掛けられても哀愁漂い上の空な風情である。

⑤ 彼女は議論を吹っ掛けられても受け流して穏やかな風情である。

(10) 私にもようやく一陽来復の兆しが見え始めた。

① 私にもようやく夢がかないそうな兆しが見え始めた。

② 私にもようやく悟りを開けそうな兆しが見え始めた。

③ 私にもようやく幸運に恵まれそうな兆しが見え始めた。

④ 私にもようやく健康になれそうな兆しが見え始めた。

⑤ 私にもようやく一人前になれそうな兆しが見え始めた。

一一

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

1980年代までは、日本企業が開発・製造する商品は、品質や完成度が高く故障も少ないうえに、多様な機能を持ち合わせ、世界中で人気が高かった。日本のものづくり力が、そのまま商品力に結びついた。テレビ、カメラ、ハンディカムなど、メイド・イン・ジャパンがユーザーに愛された。豊富な機能や不良率の低さなど、数字やカタログで表しやすい価値が重要だった。

加えて、ものづくりの生産性の高さや、当時は欧米に比べれば低めの賃金、有利な為替レートなどで、日本企業は品質の高い商品を比較的低コストで開発・製造することができた。商品の機能的価値における競争力が、総合的に高かったのである。

日本企業の丹精を込めたものづくりが、世界で尊敬され、社会に貢献できた時代であった。歴史的に常にものづくりにこだわってきた国民性と文化を考えると、この成功は偶然ではない。日本のDNAに根ざしたものづくり哲学が、高く評価されたのだ。

家電商品でさえも、多くの部品からなる複雑な構造になっていた。そのため、商品開発・製造には、設計と製造の間、複数の部品システムの間、部品企業との間などで、様々な調整が必要になった。日本企業はそれらを統合的に考えながら、繊細な調整をきちんと行う「擦り合わせ」が得意である。それも、国際競争力を高めた一因であった（藤本、2004）。

1990年代以降も、機能的な価値やコストが重要である点に変わらない。しかし、⁽¹⁾ものづくりの内容が変容した。デジタル化が進みソフトウェアやネットワークが商品力を左右する時代になった。同時に、モジュール化・標準化することによって、商品の開発や製造が簡単になった。結果的に、ハードウェアの技術力だけでは競争優位性が発揮できなくなった。

例えば、テレビは、ブラウン管ではなく液晶になり、標準的な部品システムを活用すれば、簡単に商品開発・製造ができるようになった。パソコンの製造も、標準モジュールを組み合わせるだけで良い商品ができる。ものづくりが簡単になったので、日本の擦り合わせ能力が必要なくなった。そのため、固定費も製造コストも低く抑えることができるアジア諸国に対して、価格も含めた商品力で見劣りする結果となった。

商品力を左右する技術として、アナログからデジタル、ハードウェアからソフトウェアへ移行すると、日本企業は技術面でも、米国を中心とした世界の最先端企業に対して後れを取っていた。

加えて、ネットワークでの使用が増えると、業界標準を握ったグーグルやフェイスブックのようなプラットフォーム企業が、主導権を握るようになった。プラットフォームをリードできない日本企業の国際的な存在感は一層低下していった。

デジタル化・モジュール化・標準化した環境では、X という空気が広がった。しかし、実際には、日本企業にもチャンスは常にあったが、活かすことができていない。

誰でもが製造できるパソコンや液晶テレビでは、コモディティ化してしまい、日本企業だけではなく、先進国のほとんどの企業が利益を上げられない。

逆に言えば、成功する企業は、やはり、モジュール化・標準化を超えた際立った価値を創り出してきたのである。そこでは、ものづくりの強みが貢献する余地がある。それを実現してきた象徴が、成功事例として紹介するアップルである。標準システムでは実現できない、機能を超えた高度な顧客価値が成功の最重要な要因になった。

デジタル化などの変化が起こるなかで、同時に、進んできたのが、顧客価値の暗黙化である。技術的な仕様や商品の機能など文章や数字で表される価値を超えた、使いやすさやデザインなど、暗黙的な価値が成否の鍵を握るようになった。客観的な基準で決まる機能的価値ではなく、ユーザーが主観的に意味付ける意味的価値である。

ユーザーが満足する基本機能が備わった商品であれば、誰もが開発・製造できるようになったので、差別化の源泉としては、必然的に、意味的価値や経験価値が重要になった。このように、技術の変化と同時に、求められる顧客価値に関しても大きな変化が起きてきたのだ。

新たな顧客価値を先導したのがアップルであった。特に、近年における最大の成功商品であるiPhoneが象徴的である。カタログスペックでは、Androidなど他のOSを使ったスマートフォンに対して明確な差別性を維持できたわけではない。デザイン、洗練された品質感、圧倒的な使いやすさなどの意味的価値が、成功要因だった。

結果的に、調査会社IDCのデータでは、ピーク時の何年かにわたり平均すると競合機種の上の価格でも、多くの熱狂的なファンがiPhoneを購入した。販売台数では、アンドロイド機器が優勢な地域も多いが、利益の総和で比較すると、常にiPhoneの方が圧倒的に大きかった。

このような意味的価値の創出のためには、ユーザーの五感に訴えなくてはならない。人の気持ちに入り込み、感性や情緒に触れることによって初めて生まれる繊細な価値である。そのため、デジタル技術や標準部品だけでは実現が難しい。iPhoneの美しさや快適な使い心地には、繊細なアナログ的な価値創造が求められる。

つまり、デジタル化が進展する一方で、模倣されない高度な顧客価値としては、こだわり抜いたアナログの技術が必要なのである。このような、技術のデジタル化と顧客価値におけるアナログ化の両面性が、日本企業に混乱を招いてきたという側面がある。

顧客価値の暗黙化が進むなかで注目されてきた経営手法として世界的に広まってきたのが、⁽³⁾「デザイン思考 (Design Thinking)」である。この言葉自体は、1987年にハーバード大学教授のピーター・ロエ (Peter Rowe) が出版した著書 *Design Thinking* が最初である。そこでは、主に建築デザインに関する問題解決のプロセスが論じられていた。

一方で、デザイン思考が世界に急速に広まったのは、1990年代に入ってからだ。シリコンバレーのデザイン戦略会社「IDEO」を創業したデヴィッド・ケリーが商品開発の思考法として提案した。その後、同社のティム・ブラウンによる『デザイン思考が世界を変える』（原題 *Change by Design: How Design Thinking Transforms Organizations and Inspires Innovation*）がベストセラーとなり、多くの企業でその考え方を取り入れるようになった。

ここでは、デザインは狭義の意匠を意味するのではなく、広義に使われている。人間中心の視点から、顧客が使用する際の真の価値、つまり経験価値を反映した商品開発を実現するための考え方である。加えて、そのための商品開発手法とプロセスについても具体的に説明している。

次に、筆者が解釈する ⁽⁴⁾「デザイン思考の重要ポイントの一部を、簡単に説明しよう。」

顧客の経験価値を理解するためには、求められる機能を知ることではなく、気持ちに共感しなくてはならない。つまり、アンケート調査で、どんな機能が欲しいかを聞いても役に立たない。そうかといって、好ましい経験価値について質問しても、言葉ではうまく説明できない。そこで顧客との共通体験などを通して共感することが求められる。

このような背景のもと、有用な調査方法の一つだと考えられてきたのが、行動観察調査である。文化人類学や社会学などで使われる学術的な手法（エスノグラフィ調査）が、土台になっている。

先入観を持たないまま、顧客が商品を使っている場面を丁寧に観察する。観察していると、顧客も気づいていないが、使用する操作によっては、マニュアルを何度も見直したり、てまどったり、使いにくそうな表情になったりするのがわかる。これらは、使い心地や経験価値が悪いことを示唆しているので、改善が必要である。

このような経験価値は、顧客でも自分で分析したり、他人に説明したりすることは容易ではない。使用中の気持ちを覚えていない場合も多い。そのため、顧客に聞くよりも、観察調査の方が、優れた経験価値の創出には参考になる。

商品開発の中間評価でも経験価値の評価が必要である。目標とする経験価値の達成度合いを数字や仕様で測定することはできない。そこで、なるべく迅速にプロトタイプ^(注4)を作って、使用価値を評価する。悪い点があれば、プロトタイプを改良して再びテストする。それらを何度も繰り返し試行錯誤しながら、優れた商品開発に結びつける。

ここで説明したのは、全体のごく一部であるが、このような考え方とプロセスを体系化したのが、IDEO社を起源とするデザイン思考である。

(延岡健太郎『アート思考のものづくり』による。出題の都合上、一部中略した箇所がある。)

- (注)
- 1 モジュール化——製品やシステムを構成する部分・機能を一つの単位として独立させ、他の製品でも使えるように規格化すること。
 - 2 プラットフォーム企業——企業や個人のサービスが利用者とつながる基盤を提供する企業。
 - 3 コモディティ化——製品やサービスに大差がなくなり、顧客から見てもどれを買っても同じという状態になること。
 - 4 プロトタイプ——製品・サービスの初期段階のモデル。試作品。

問1 傍線部(1)「ものづくりの内容が変容した。」とあるが、どのように変容したのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうち

から一つ選びなさい。解答番号は 11。

- ① デジタル化によってソフトウェアの技術力が問われるようになり、ものづくりの裾野が広がったのに加え、情報産業が隆盛して関連企業が乱立した。
- ② デジタル化に伴い、商品の中心がハードウェアからソフトウェアへと移行し、ものづくりの一元化が進むなかで、一企業が利益を独占すると共に流行を左右するようになった。
- ③ デジタル化の進展を背景として、ハードウェアの需要が落ち込み、ものづくりの分掌が進んで、利益が複数の企業によって分散されるようになった。
- ④ デジタル化が進んでハードウェアの価値が損なわれ、ものづくりが下火になって、ネットワークを介する情報そのものが商品として大規模な市場を持った。
- ⑤ デジタル化によってソフトウェアが価値を生み出す主体となっていき、ものづくりは簡単になり、ネットワーク関連企業が存在感を示すようになった。

問2 空欄 X にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 12。

- ① 日本企業は手も足も出ないのに、コストを度外視してでも、過去の栄光を取り戻そう
- ② 日本企業はものたりなさを感じると同時に、価格的にも見合わないが、やるしか無い
- ③ 日本企業は強みが活かせないうえに、コスト競争力でも劣るので、もう勝ち目が無い
- ④ 世界の最先端企業に日本企業が勝つには、自らの強みをさらに磨き上げる以外に無い
- ⑤ 世界の最先端企業の模倣をしたところで、規模の面で日本企業が勝てる見込みは無い

問3 傍線部(2)「顧客価値の暗黙化」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13。

- ① 文章や数字で表される価値よりも、世間的に人気の高い商品に対して人気が集中するようになった。
- ② 使いやすさやデザインといった顧客の主観的な価値観が、商品開発のうえで考慮されることがなくなった。
- ③ 他の商品との差別化を図るために、仕様や機能を犠牲にしても外見を重視する傾向がみられるようになった。
- ④ 商品の仕様や機能ではなく、顧客の感性に訴えることが商品開発で重要視されるようになった。
- ⑤ 基本機能を搭載したうえで、企業のコンセプトを伝えるような工夫を行うことが常識になっていった。

問4 傍線部(3)「『デザイン思考 (Design Thinking)』」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 商品を開発する人間と使用する人間が、意見交換を重ねながら商品を作るという思考。
- ② 商品を実際に使用するなかで、使用者が感じた内容を商品開発の段階で活かすための思考。
- ③ 商品を多面的に評価するために、複数の人間を商品開発に積極的に関わらせるという思考。
- ④ 商品に独自性を持たせるために、商品開発のプロセスを従来よりも複雑化するという思考。
- ⑤ 商品の意匠に対して使用者の意見を盛り込み、それを根拠のあるものとするための思考。

問5 傍線部(4)「デザイン思考の重要ポイントの一部」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答

番号は 15。

- ① 顧客が商品を使用した際の感想を詳細に分析することによって商品の経験価値を測定し、その後の修正に活かす。
- ② 顧客に言語化しやすいように評価のポイントを示したうえで商品を使用してもらい、経験価値の上昇を目指す。
- ③ 顧客が商品を使用する様子を観察し、言語化できない顧客の感情などから、経験価値を上げるための改善点を探る。
- ④ 顧客と一緒に商品を使用してみること、商品の経験価値の実情を知るとともに顧客の感想を得、試作を重ねる。
- ⑤ 顧客と商品を使用するという共通体験を通して、商品の経験価値に対する評価を数値化し、使い心地をよくする。

問6 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

- ① 1980年代までは、日本の商品は品質や完成度のうえで世界的に評価が高く、しかも比較的安価で提供していた。
- ② 日本人はものづくりに秀でており、商品に関わる企業や人々の間で目標を共有する「擦り合わせ」にも長けていた。
- ③ 現代において企業が成功するためには、ものづくりへの依存から、新たな価値の創出へと転換する必要がある。
- ④ アップルのiPhoneは、他のスマートフォンに対し、稀少性と割高な価格帯で明確な差別性を示している。
- ⑤ デジタル化が進展したことで、顧客の感性や情緒といった価値が重視されるようになり、消費者の権限が強まった。

三

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

地方にとって人口減少の大きな要因の一つは、大都市への若者の人口流入である。特に、「一八の春」といわれる⁽¹⁾大学進学時に多くの若者が地方から首都圏に流れ込む状況がある。大学生の分布をみると、二〇一六年では、わが国全体の人口比では一〇%の東京都に、日本の大学生の二六%が集中しているという極端な一極集中構造だ（ちなみに神奈川県、埼玉県、千葉県を合わせた東京圏で見ると四〇・八%が集中している）。これは、大学進学時に地方から若者が東京に強引に吸い寄せられる構造であり、欧米先進国では見られない、いびつな図式でもある。しかも、二〇一一年における東京都の学生数の割合は二四・四%であり、一五年間で一・六%上昇してきており（東京圏では〇・八%上昇）、着実に東京への求心構造は高まっていることが分かる。この理由は、いつのまにか高等教育を市場原理にゆだね、大学運営の多くを私学に依存し、効率性を優先させてしまった結果といえるだろう。

高等教育機能は首都機能に付随するものでは決してなく、逆にゆとりのある地方圏が担うべき役割である。戦前、わが国には、ナンバースクールのと呼ばれた旧制高等学校が全国にバランスよく配置されていた高等教育政策の伝統があったことを思い起こすと、ゆとりのある環境に身を置いて勉学に勤しむという高等教育機関の立地の思想がいつのまにか希薄になっているように感じる。地域社会の健全な発展と大学の役割の両面からも高等教育機能の地方分散を真剣に考えていく必要がある。

東京に大学が集積している理由の一つに、日本では私学の割合が高く、また私学に対する助成の措置が欧米などに比べれば脆弱^{ぜいじやく}であることから、効率的な経営の観点から大都市部に集積してしまうことが挙げられる。二〇一六年における東京都の大学生数の割合は、国立大学が一二・五%、公立大学が六・四%に対して私立大学は三一・三%と極めて高い割合となっている。やや乱暴かも知れないが高等教育政策を市場メカニズムに委ねてしまった結果が、若者の東京圏への一極集中構造を形成してしまったともいえる。

もともと、わが国では一九六〇年代から国土政策において工業、大学の大都市圏への立地は制限されていた。「首都圏の既成市街地における工業等の制限に関する法律」（一九五九年三月一七日法律第一七号）および「近畿圏の既成都市区域における工場等の制限に関する法律」（一九六四年七月三日法律第一四四号）により、大都市の既成市街地への産業と人口の過度の流入を防止して、都市環境の整備と改善を図るために工場と

大学等の新增設は原則認めないという政策が四〇年近く続けられてきた。これらの法律は工場と大学と一緒に立地制限するというスキームであったが、その後の製造業からサービス業へのシフトや製造業における海外生産比率の高まり等の産業構造の変化を背景に、工場立地制限についてはその役割を終えたとして二〇〇二年に廃止された。大学の立地制限もこの時に廃止されたのである。

⁽²⁾ 大学の立地制限についてはどのような議論がなされたのであろうか。当時の国土審議会首都圏整備分科会の報告を見ると、地方圏における同一道県内進学率の上昇、また地方圏における同一圏内進学率の上昇を根拠に、「地方における地元大学への進学傾向の高まりが顕著であり、地方圏における大学の充実や、少子化という実態を踏まえると、工業等制限法の廃止によりこの傾向が大きく変化することは考えにくい」として廃止が相当と結論づけているが、説得力には欠ける。産業構造の変化による立地政策に、大学立地政策も引きずられたとは思えない。残念ながら大都市と地方にどのようにバランス良く高等教育機関を配置していけばいいのかという、国のかたちを考える議論はなかったようだ。

なお、二〇一八年に地方創生の観点から東京への大学集中を制限する立法措置が採られている。「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律」が制定され、地方の大学振興や若者の修学・就業を促進させることを目的に、地方自治体への新たな交付金や、地方に就業する若者の奨学金返還支援制度を創設し、東京二三区にある大学の学部、学科の新増設は抑制することとされた。大学問題に着目した姿勢は評価できるが、歴史的な政策の推移を踏まえれば、不十分な内容といわざるを得ない。

これからは地方創生を先導していく主体として地方大学を位置づけ、積極的に強化していく視点が必要であろう。高等教育政策の理念として地域社会と共生していく視点は大切だ。二〇〇六年十二月に教育基本法が改正され、新たに大学の役割として「社会の発展に寄与する」ことが明記され、大学の知的資産を地域社会に活用していくことが求められてきており、地域社会と大学を結びつけていくことが重要になってきている。

その観点からは、⁽³⁾ 公立大学の役割を積極的に位置づけていく必要があるだろう。公立大学は、大学全体で見ればまだ学校数で一二%、学生数では大学全体の五・三%に過ぎない（二〇一八年度）が、地方自治体の責任で設置し、運営していくことができる、地方主導で高等教育政策に関与していける貴重なスキームである。

私立大学では半分以上の学生が東京圏に暮らしているが、公立大学では、九割近い学生が東京圏以外で暮らしている。公立大学の役割を高めていくことは、大都市と地方の不均衡の是正に、また出生率低下の大きな要因となっている若者の大都市圏移動を緩和することにも大きくつな

がる。

それでは、地方自治体が新たな公立大学を自前でつくることは可能だろうか。わたしは北海道東部の地方都市、釧路市にある釧路公立大学で学長という立場で大学運営に関わっていた経験がある。釧路公立大学は、一九八八年に設立された大学だが、日本で地方都市が自前でつくり上げた最初の四年制公立大学である。当時、釧路市のような人口二〇万人規模の地方都市では大学設立は財政的に困難だとする国の強硬な姿勢があったが、何とか地域の大学がほしいという強い意志で設立したものだ。釧路市単独では無理とする国の指導に対して、釧路地域の一〇市町村（当時）による一部事務組合による設立、運営という方式を逆提案してでき上がった大学である。ちなみに、その手法は、その後宮崎公立大学、青森公立大学、公立はこだて未来大学に発展し、わが国で地方都市が自前で大学を設立する先行モデルとなった。

地方が大学設立を求めながら、国の政策が大変慎重であった背景には、先述した市場原理依存の政策基調がある。大学がその地域に必要なかどうかという判断よりも、X が重視されたのであろう。しかし現実には、これらの地方大学は財政的には国が危惧した支障もなく運営を続けてきている。釧路公立大学の場合は、当初の建設資金を地元釧路市が負担した以外は、開学以来安定的に黒字経営を続けてきている。ちなみに、公立大学の運営資金には文部科学省からの助成システムはなく、一般の自治体と同様に地方交付税によって運営されている。

⁽⁴⁾ 地方都市において大学が受け入れる若者の存在は非常に大きい。現在約一七万人の人口の釧路市において、常に一三〇〇人前後の一八歳から二二歳の若者が四年間安定的に定住する。そこから生まれる活力は、まちづくりにとっても重要なエネルギーとなり、特に人口減少・高齢時代においては貴重である。単に、地元の若者の進学先が地元にあるという以上の効果がある。大学が果たす高等教育機能にとっても、ゆとりのある地方の勉学環境は貴重なもので、学びの空間としては大都市に負けない優位性がある。

わたしが学長時代に全国の学長が集まる会議に参加して不思議に感じたことがある。それは、なぜこれだけ多くの大学が東京圏にあるのかという素朴な疑問とともに、多くの関係者がそれを当たり前としていることの不思議さであった。地方自治体の政策として、特に地方都市においては公立大学の設置、運営を真剣に考えていくことは大切である。大学の機能は決して首都機能に付随するものではなく、地方の豊かな自然と空間こそ質の高い高等教育を育んでいくことができる。

公立大学の役割と存在を高めていくことは、高等教育における地方分権の流れでもある。地方のゆとりのある教育環境から多様な人材をより多く育てていくことは、地方の活性化につながる地方自治体の大切な役割であろう。

（小磯修二『地方の論理』による。出題の都合上、一部中略した箇所がある。）

（注） 1 ナンバースクール——戦前の旧学制で、校名に設立順を表す数がついていた高等学校。第一高等学校（一高）から第八高等学校（八

高）まで全国に散らばっている。

2 スキーム——構想、枠組み。

3 市場原理依存——本書では、高等教育を市場任せにし、私学中心で効率を優先した政策姿勢を指す。

問 1 傍線部(1)「大学進学時に多くの若者が地方から首都圏に流れ込む状況がある。」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なもの

のを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

17。

- ① 大学立地制限の廃止時に、地方の若者は地方への進学傾向が強いとされたことで、都市集中への懸念が軽視されたため。
- ② 戦前のように全国に大学を分散させる政策が失われ、地方でゆとりある教育環境を整える動きが停滞したため。
- ③ 効率を優先するうちに、市場原理に基づき、いつの間にか大都市に私立大学が偏在することになったため。
- ④ 東京二三区の大学新增設は制限されたが、私学助成の弱さが解消されず、効率を求めて都市集中が続いたため。
- ⑤ 公立大学は地方で重要な役割を担うが、全体に占める割合が小さく、若者流出を止める力が十分でなかったため。

問2

傍線部(2)「大学の立地制限についてはどのような議論がなされたのであろうか。」とあるが、このことに関する筆者の意見として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① 大学の立地制限の撤廃ありきの議論であり、根拠も後付けで、高等教育に関する展望が全く示されていない。
- ② 地方の高等教育について正確な分析ができておらず、また、大都市に対するビジョンも明確とはいえない。
- ③ 工業等制限法の廃止による影響の小ささは根拠とするには不十分で、高等教育を軽視する姿勢がうかがえる。
- ④ 説得力に欠ける根拠によって廃止されており、大都市と地方のバランスを歪めようとする意図が見て取れる。
- ⑤ 産業構造の変化による立地政策に乗じる形で撤廃されたものであり、そこに積極的な意義は認められない。

問3

傍線部(3)「公立大学の役割を積極的に位置づけていく必要がある」とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 19。

- ① 地方大学が地域社会に果たしている役割は大きく、公立大学の存在が大都市圏への若者の集中を阻止した実績もあるから。
- ② 地方大学が地方創生を担う主体となるのが理想的であり、東京圏以外に住む学生の多くは公立大学に属しているから。
- ③ 教育基本法の改正で大学の知的財産を地域社会で活用することが勧められ、それが公立大学の理念と一致しているから。
- ④ 教育基本法の改正で大学に社会の発展への寄与が義務付けられ、地方自治体による公立大学の設立が増加したから。
- ⑤ 地方創生を先導し、若者の地方での就業を促すために、地方主導で公立大学を運営していくことが望ましいから。

問4

空欄

X

にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

20

。

- ① 大学が無尽蔵に増加して、国の財政を圧迫することへの懸念
- ② 大学が円滑に経営、運営できるかという事業発想の視点
- ③ 大学が地方自治体と結びついて、国の監視下を離れること
- ④ 大学が学生にとって本当に有意義な存在になれるか否か
- ⑤ 大学を設立することによる、地方都市の経済への悪影響

問5

傍線部(4)「地方都市において大学が受け入れる若者の存在は非常に大きい。」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

21

。

- ① 人口が減少し、高齢化が進むなかで、大学の四年間定住する若者は地方都市にエネルギーを吹き込む存在となるということ。
- ② 大学生活をきっかけに、それ以降も若者が定住するようになれば、衰退が進んでいる地方都市を活性化させるということ。
- ③ 若年者層が絶対的に希少な地方都市では、四年間定住する若者と地元民の交流が、地方都市の活力となるということ。
- ④ 千人単位の若者が四年間定住することで、受け入れる地方都市の経済は相当潤うことになるということ。
- ⑤ 人口が少なく、人口構成にも偏りがある地方都市では、若者を呼び戻す意味で大学が設立されているということ。

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 22。

- ① 多くの若者が、大学進学を機に大都市へと移住するという現象が、大都市の過密化を進めるということで問題視されている。
- ② 高等教育機能は、戦前のナンバースクールのように、優れた大学が全国に均等にあるのが理想であるが、現状はいびつな形である。
- ③ わが国では、一九六〇年代から、地域社会の過疎化を防止することを目的に、国土政策で大学の大都市圏への立地を制限していた。
- ④ 二〇一八年に採られた立法措置は、東京二三区への大学の新設を禁じることによって、地方の大学振興を目指すというものだった。
- ⑤ 地方自治体の政策として、公立大学の設置、運営は効果的であり、そのためにも地方分権を確固としたものにする必要がある。

2026 年度 新潟医療福祉大学

一般選抜（前期日程）

【2月5日(木)】

国 語

一

次の(1)～(7)の傍線部にあてはまる漢字を選びなさい。また、(8)～(10)の文の意味として正しいものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 10。

(1) 習い事をタセイで続ける。

- ① 駄
- ② 妥
- ③ 打
- ④ 墮
- ⑤ 惰

(2) 資料の返却をトクソクされる。

- ① 匿
- ② 督
- ③ 篤
- ④ 得
- ⑤ 徳

(3) 平家一門のコウボウを読み解く。

- ① 亡
- ② 膨
- ③ 暴
- ④ 冒
- ⑤ 傍

(4) 契約をリコウする。

- ① 吏
- ② 履
- ③ 璃
- ④ 利
- ⑤ 離

(5) ひどい言葉で相手をグロウする。

- ① 漏
- ② 郎
- ③ 楼
- ④ 露
- ⑤ 弄

(6) ショシカントツを心掛ける。

- ① 勘
- ② 汗
- ③ 勧
- ④ 貫
- ⑤ 閑

(7) 書道をガリユウで学ぶ。

- ① 我
- ② 餓
- ③ 瓦
- ④ 牙
- ⑤ 雅

(8) もはやいかんともしがたく、僥倖^{きやうしやう}にめぐりあうことを祈るしかない。

① もはやいかんともしがたく、第三者からの助けにめぐりあうことを祈るしかない。

② もはやいかんともしがたく、目の覚めるような大逆転にめぐりあうことを祈るしかない。

③ もはやいかんともしがたく、思いがけない幸運にめぐりあうことを祈るしかない。

④ もはやいかんともしがたく、身近なところにある幸福にめぐりあうことを祈るしかない。

⑤ もはやいかんともしがたく、気持ちを共感してくれる仲間^{仲間}にめぐりあうことを祈るしかない。

(9) 彼の言動は後足で砂をかけるようなものだった。

① 彼の言動は恩を仇^{あだ}で返すものだった。

② 彼の言動は相手の神経を逆なでするものだった。

③ 彼の言動は後先を考えていないものだった。

④ 彼の言動は独りよがりなものだった。

⑤ 彼の言動は幼稚で愚かなものだった。

(10) 鶏鳴狗盜^{けいめいことう}の技能だと人に笑われる。

① 他人よりも劣った技能だと人に笑われる。

② つまらない技能だと人に笑われる。

③ 完成度の低い技能だと人に笑われる。

④ 似たり寄ったりの技能だと人に笑われる。

⑤ 見映えがよい技能だと人に笑われる。

一一

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

村という言葉は、奈良時代にはすでに存在していた。たとえば、当時の荷札木簡などにその表記が見受けられる（平城京で発掘された七三七「天平九」年のものとみられる、「高瀬村」と記載された木簡など）。荷札木簡とは、現在でいえば宅配便の運送状（＝送り状）に相当するものであり、これによれば、送り手も、受け手も、そして配達者も、表記された村を「村」として認識していたとわかる。もっとも、このときの村は、和語のムラに中国から伝来した漢字を対応させたものであるから、中国語の村と、和語のムラの意味内容が一致しているかという点では微妙な問題もある。当時の地方行政機構は国郡郷（里）であり、村（邑）は含まれなかったが、地図作成要領などに「郡国郷邑」という表現もみえ、古事記にも村の記載がみえるので、一般に用いられた表現だったはずである。

しかし、⁽¹⁾当時の村は、現在の村とはまったく性格を異にしていた。というのは、当時の村は、土地や地名を指す言葉である以前に、第一義的には人間の集団を指す言葉だったからである（それに対し、「町」は純粹に「番地」を意味していたが、この点についてはここでふれない）。当時も基本的には農耕を中心とした定住社会であったため、村が土地や地名と密接に関連していたことは疑いがなく、それでも、自然災害によって安定的に耕地を維持できないような場合や、戦乱などの際には村ごと移住するということもあった。それらの場合、離村ではなく、村自体が移動するわけである。

さて、村が第一義的には人間の集団を意味したという事実が示すのは、人間と土地との関係でいえば、「人を通じた土地の捕捉」が行われたということである。⁽²⁾つまり、まず村人ありきで、その村人たちが持っている土地を地図に落とし、いくと村の領域が確定されるという順序になる。ために、⁽²⁾明治初年に、土地の現況を調べるために各地で作成された村絵図を眺めてみれば、ことのほか飛び地や地籍錯雑の多いことに気づくであろう。

飛び地ができるのは、人間を通じて土地を把握するからであって、まず土地を区画し、区画された土地を通じて人間を把握しようとするれば、飛び地の出現する余地はない。だから、飛び地は「人を通じた土地の捕捉」という、属人的な支配のあり方を表現するものであった。また、当時は、いずれの村にも属さない土地が広く残されていた。人間が関心を持たない土地や、意図的に隠された土地は支配の視野には入らなかったし、実際のところ、用益のない土地や視野に入らない土地をどこかの村に帰属させる必要もなかったのである。さらに、用益があり、支配の対

象にはなっていないも、入会地(注1) いりあいちや共有地のように、一つの村には帰属しないという場所もあった。だから、村は必ずしも地続きではなく、海に浮かぶ島々のようなものとして存在していたし、そのように観念されていた。

それに対して、現在、村というときには、まず、ある領域を想定する。その「村の土地」の上に住んでいる人は、原則としてその村の住民として扱われる。つまり、まず村の領域があつて、そこから人間（村人）を把握していくという考え方に立っている。また、その前提として、国土のあらゆる土地が、どこかの村（市町村）に属しているということにもなっている。もともと、村が第一義的には土地を意味するといった場合、土地が村に帰属するの、村が土地に帰属するの、これも微妙な問題を残すが、ことの経緯からすれば、先述のように土地が村に帰属するという順序（〇〇村の土地）になるであろう。こうして、境界で囲まれた一円的な村（市町村）がパズルのように敷き詰められているというのが現在の姿である。むしろ、Xといった方がよいかもしれない。

そして、両者の間には「人を通じた土地の捕捉」から「土地を通じた人の捕捉」への原理転換（といっても、重点の転換であるが）があつた。こうした転換が、いかなる理由で、いつ、どのようにして起こったのかを「近代化」という文脈から明らかにしようというのが本書の課題である。

結論を先に述べるなら、人と土地を遺漏なく掌握するためには「土地を通じた人の捕捉」が必要だったというのがその理由であるが、その試みは明治期になって始まったのではなく、一六世紀にはすでに存在していた。そして、その背景には、ポルトガルの来航に象徴されるような国際環境の変化があつた。すなわち、世界を分割し、囲い込もうという流れである。これに触発されて、日本でも「天下統一」が推し進められる。村をめぐる観念の転換もそれによって引き起こされた。領知権（年貢を取る権利）と所有権（土地の処分権）を分離し、前者を領主に、後者を百姓に与えたのは秀吉の英断であつたが、これは⁽³⁾ 全国の領主を「鉢植え」にするための方策であつた。このときに「村切り」が行われ、村を区画した上で、そこに土地も人も紐付けしようと試みられたのである。

ただし、「領域としての村」の形成や度量衡の統一などは不徹底であつた上に、その後、幕藩体制下の権力分散化によって見直しも受け、うまくいかない。また、町場の拡大によって村が浸食されたり、新田開発の結果、村の範域自体が変わって飛び地が生じたり、さらには村が複数の領主の支配を受けるようになったりもした。結果として、幕藩体制下で、村は、土地を囲い込むことにも、人を囲い込むことにも成功せず、

反対に、支配の都合で石高制の帳尻合わせのために切り刻まれていく。そのため、幕藩体制下とくにその後期における村は、分断され、飛び地に彩られて、それ以前にも、それ以降にも類例のない、特異な性格・特異な形態のものになった。

最終的に「土地を通じた人の捕捉」への転換が実現し、村があらゆる土地を囲い込むことにひとまず成功するのは、一八八九（明治二二）年の市制町村制施行期のことである。そして、その前提として、①明治初年の郡県改革、②山林や荒蕪地^{（こうぶち）}まで含めた土地の実態把握、③町村合併（明治の大合併）による土地の組み替え等が存在した。

①の明治初年の郡県改革は、個別的には飛び地の整理という形で開始されるが、一八七一年から一八七二年（明治四年から五年）にかけて本格化する。まず、戸籍法の公布に始まり、廃藩置県、第一次府県統合、戸籍法改正、府県以下の行政区画再編という流れで具体化されていった。郡県制とは、集権的統一権力の下で地方を統治するための仕組をいい、そのための改革を本書では郡県改革・郡県化と呼ぶ。これによって、府県・郡レベルまでの飛び地は整理され、国土を府県、府県を郡というように、上から順に区切っていく行政区画が導入された。一般行政区画としては、府県・郡・大区・小区など、特別行政区画としては、学区、裁判区、徴兵区などがそれにあたる。

他方で、困難を極めたのは、②の土地の実態把握であった。これを実現するためには、現地で実測・確認作業が必要であったが、現地の抵抗もあって、その達成には幾重もの困難がともなったからである。そして、土地の実態が不明確だったために、村レベルの郡県化が不可能になっていたのである。地租改正、その後の地押^{（おし）}調査、地籍調査などを経て、土地の実態把握がほぼ完了したのは一八八〇年代末であった。

土地の実態を把握した上で、それまで未帰属であった土地をいずれかの村（市町村）に帰属させるために、③の「町村の大合併」が実施された。町村合併は、未帰属地の解消だけでなく、飛び地や地籍錯雑の解消、境界紛争地の処理、入会地の処理など、当時、課題となっていた多くの土地問題を一括して解決するための便法だったのである。町村合併を経てあらゆる土地がどこかの村（市町村）に帰属するという原則が確立したのも、一八八九年の市制町村制の施行時である（香川県をはじめ、一部施行の遅れた地域がある）。

一連の事実が示すのは、^{（4）}村が集まって、あるいは村が積み上がって国を作ったのではなく、国を分割して村を作ったということである。それが、この時期の地方制度改革の意義であった。そしてその意味で、近代の村もまた「分割と囲い込み」の産物であったといえる。

（荒木田岳『村の日本近代史』による。出題の都合上、一部中略した箇所がある。）

(注) 1 入会地——村落共同体が共有・共用する土地。

2 荒蕪地——荒れた土地。

3 地押調査——検地方法の一つ。

問1 傍線部(1)「当時の村は、現在の村とはまったく性格を異にしていた。」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 11。

① 当時の村は、ある人間の集団を指し、その呼び名が彼らの住む土地に用いられたというのが正しい順番であり、その結びつきは流動的で消滅も多かったということ。

② 当時の村は、共同体を意味し、農耕が中心だったために土地や地名と結びついていただけで、定住場所に伴って村の領域が確定したということ。

③ 当時の村は、ある土地や地名と密接に関連する人間の集団を指しており、彼らがその土地を離れると、村も解散するというケースが多かったということ。

④ 当時の村は、土地や地名というよりも、固定的な人間の集団を意味しており、農耕生活を送る彼らは地名に名の由来を持つことが多かったということ。

⑤ 当時の村は、農耕を中心とした定住社会を築いている人間の集団を指しており、その集団が暮らしている土地もまた村と呼ばれるようになったということ。

問2

傍線部(2)「明治初年に、土地の現況を調べるために各地で作成された村絵図を眺めてみれば、ことのほか飛び地や地籍錯雑の多いことに気づくであろう。」とあるが、飛び地や地籍錯雑の多さは何を意味しているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 12。

- ① 土地の活用にはかなりの地域差が存在していて、複数の村が近隣の有益な土地のみを共同で管理していたこと。
- ② 土地ではなく人間を通じて村が把握されており、複数の村の関係性が村の位置関係から正確に理解できること。
- ③ 土地の所有者が曖昧であり、また、人間にとって有益な土地と用をなさない土地がはっきりと分かれていたこと。
- ④ 土地を管理する人間が自分の利益のみを優先しており、それが整然とした土地の区画を阻む結果を生んだこと。
- ⑤ 土地が地理的条件で区画されたものではなく、人間の集団に依存するために境界が複雑になったということ。

問3

空欄

X

にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

13。

- ① 多くの村が誕生したことによって境界線がより複雑なものになった
- ② いずれの村も国の管理下に属することによって対等な関係になった
- ③ それぞれが独立したために区画がみえてくるようになった
- ④ お互いが接するようになったために境界線が引けるようになった
- ⑤ 従来に比べて村人の村に対する帰属意識が一層強いものとなった

問4 傍線部(3)「全国の領主を『鉢植え』にするための方策」とあるが、それはどのような方策か。その説明として最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 領主に領知権を与えて権威を増すことで、安定した統治を可能にして天下統一を推し進める方策。
- ② 農民の管理と年貢の徴収を目的に村を区画し、村を単位とした知行権を領主に与える方策。
- ③ 領主に領知権しか与えないことで権力の増大を防いだ上で、最終的には領地も没収する方策。
- ④ 百姓に所有権を与えることで領主への対抗力を養わせ、自治を促して領主を排斥させる方策。
- ⑤ 百姓に所有権を与えて私有財産の取得を許容することで、領主の権限を縮小していく方策。

問5 傍線部(4)「村が集まって、あるいは村が積み上がって国を作ったのではなく、国を分割して村を作った」とあるが、どういうことか。その

説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 全国の人と土地を一元的に管理するため、行政区画に従って土地を分割・編成した結果、あらゆる土地が村に帰属したということ。
- ② 従来の村の境界線とは別に、統治上の問題を解決するための境界線を設け、国の新たな構成要素と見なしたということ。
- ③ 合併などによって既存の村を完全に消滅させ、近代化する上で都合のよいように、国土を分割して村を再編成したということ。
- ④ どこにも属していなかった土地を村に帰属させて新たな共同体となし、自治権を与えることで国の負担を減らしたということ。
- ⑤ 村と村の間に存在していた土地に関する問題を解消する代償として、既存の村には国政への参加が義務付けられたということ。

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

16

。

- ① 奈良時代の荷札木簡に見られる「村」は、中国語の表記を借りていることから、その意味内容もまた踏襲している。
- ② 奈良時代の地方行政機構に「村」は含まれなかったが、一般的な常識として、共同体の最小単位と認められていた。
- ③ 「人を通じた土地の捕捉」を実施する上では、前提として、国土のすべての土地が村に属している必要があった。
- ④ 「土地を通じた人の捕捉」への変換は一六世紀には起こっていたが、制度として完成したのは明治期のことだった。
- ⑤ 明治期に行われた土地の実態把握は、現地の抵抗に遭い、土地の実態が非常に複雑なものであったことから難航した。

三

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

ソクラテスの弟子であるプラトンは、ソクラテスを死刑にしたアテナイの政治に失望します。それでもプラトンは、人間の正しい魂の育成には理想のポリスが不可欠だと考えました。^(注2)

正しい魂とは、理知的部分、気概的部分、欲望的部分の調和のとれた魂のことです。プラトン曰く、人間の魂には三つの部分があり、理知的部分は知恵、気概的部分は勇氣、そして欲望的部分は節制という徳に関係しています。それぞれの部分が他の部分を侵犯することなく調和が保たれているときに、魂は「正しくある」、つまり正義にかなった状態にあります。

他方でポリスの方にも、理知的部分、気概的部分、欲望的部分の三つの部分があり、それぞれ知恵、勇氣、節制と関係しています。理想のポリスでは、哲人王を例とする守護者層が知恵を担い、軍人を例とする補助者層が勇氣を担います。経済階層——「主として子供たちや女たちや召使たちや、さらに自由人とは名ばかりの多くのつまらぬ人たち」（『国家』）から構成され、生産活動に従事する人たち——には、自らの欲望を節制することが求められます。そして、これらの三つの徳を存続させるはたらきをするのが正義です。それぞれの部分が他の部分を侵犯することなく調和が保たれているときに、ポリスは「正しくある」、つまり正義にかなった状態にあるのです。やみくもな利益の追求は、魂とポリスの秩序をかき乱すものであるため、不正となります。

この魂とポリスのアナロジーから窺^{うかが}えるように、プラトンが説く正義は、人間とポリスの両方があつてはじめて成立します。徳のある魂、すなわち調和のとれた「自己の内なる国制」の育成には、それを仕立ててくれる学問と、哲人王が必要です。哲人王は真の哲学者でなければならず、真の哲学者は真実を観^みることを愛する人たちのことです。プラトンは、^(注3) ⁽¹⁾ 自らの壮大なアイデアを「ぼく」こと「ソクラテス」に語らせませす。

「哲学者たちが国々において王となって統治するのではないかぎり」とぼくは言った、「あるいは、現在王と呼ばれ、権力者と呼ばれている人たちが、真実にかつじゅうぶんに哲学するのでないかぎり、すなわち、政治的権力と哲学的精神とが一体化されて、多くの人々の素質が、現在のようにこの二つのどちらかの方向へ別々に進むのを強制的に禁止されるのではないかぎり……国々にとって不幸のやむときはないし、また人類にとっても同様だとぼくは思う。さらに、われわれが議論のうえで述べてきたような国制のあり方にしても、このことが果^{はた}されな

いうちは、可能なかぎり実現されて日の光を見ろということ、けっしてないだろう……」(プラトン『国家』)

ここで言われている国制は、二〇世紀のカール・ポパー以降、プラトンの全体主義と呼ばれることのある思想にもとづくものです。プラトンは、ポリス全体の利益のため守護者層の徳(守護者層としての優れた働き)を維持しようと、守護者層の男女に同じ教育(音楽・文芸・体育)を施し任務を与えることを提案すると同時に、女・子ども・生活・財産の共有を提案します。「これらの女たちのすべては、これらの男たちすべての共有であり……さらに子供たちもまた共有されるべきであり、親が自分の子を知ること、子が親を知ることと許されない」法をつくるというのです。これは、守護者層ができるだけ優秀なままにいるように、子作りを統制しようという考えです。これがソクラテスに語らせた、正義とは何であるかに対するプラトン自身の答えの一部でした。この対話篇^{へん}『国家』には、女性の対話者が見あたりません。実際アテナイの民主制では、市民階級であつても女性は、政治に参加することができなかったのです。

正義は誰が語りうるものなのか――。

右で紹介したプラトンの提案は、古代ギリシア世界においても、人びとに広く受容されていた思想ではありませんでした。それについて少し言及してみたソクラテスは、観衆に突かれてはじめて、自説を開陳してゆきます。(我ながら大胆なアイデアだが、これこそが正義をもたらすのだ)という心の声が聞こえてきそうな臨場感です。

このような奇抜なアイデアを含むプラトンの『国家』が、長いあいだ政治哲学の「カノン」(正典)のひとつとして君臨してきたのは、それが可能だったからです。

現代では、「これらの女たちのすべては、これらの男たちすべての共有であり……」などと真顔で述べる正義の語り手は、いるとすればさまざま反論されます。人間として男性と等しい権利を有する女性が観衆にいて、対話に参加しているからです。同様に、奴隷制を正当化したり、外国人や障^{しょう}碍^{がい}者の排除を訴えたりする正義の語り手も、同様に反論されます。人間として内国人や健常者と等しい権利を有する外国人や障^{しょう}碍^{がい}者、あるいはその代弁者が、やはり観衆にいて、対話に参加しているからです。

こうして見ると、古代ギリシア時代から現代にかけて、正義論の言わば民主化が進んだことがわかります。現代では、およそ人間であれば誰

でも、正義を語りうると同時に正義の対象となりうるのは誰か。誰もが正義の主体である時代に、私たちは生きています。

この時代において、〈正義とは何であるか〉を決めるのは誰か。アメリカの政治哲学者マイケル・ウォルツァー（一九三五―）は一九八一年の「哲学とデモクラシー」という論文で、哲学と民主主義の関係について論じました。ウォルツァーの問題関心は、⁽²⁾哲学が追求する真理と、人びとの民主的な決定、この二つのあいだにある緊張関係を、どのようにして解決するかにありました。

そもそも哲学者には、山や洞窟に籠もって真理を探究する人というイメージがあります。

このイメージから導かれる哲学者とその政治とのかかわりについて、ウォルツァーは次のように述べています。

「哲学者はいかなる観念の共同体の市民でもない。そのことが彼を哲学者にするのだ」。私は、この「^(注5)ワイトゲンシュタインの」言葉を、政治哲学者は政治的共同体から自分を引き離さなければならない、感情の^(注6)絆や習慣的な観念から自分を切り離さなくてはならないという意味で解釈してきた。そのようにしてはじめて、政治哲学者は、政治的^(注6)アソシエーションの意味と目的、共同体（あらゆる共同体）にとって適切な構造とその統治について、最も深い問いを発し、それに何とか答えようと努力することができる。この種の知識は外部からのみ得ることのできるものである。（ウォルツァー「哲学とデモクラシー」）

しかし、現代社会に生きる私たちを主体とする正義に関しては、現代社会の外部にいる哲学者の結論が正しいとは限りません。民主制を粹とする社会の正しさは、民主的決定と無関係ではいられないのです。哲学的に見てどんなに精確な政策であっても、それを採択するかどうかを決めるのは、その権利（正しさ）をもつ民衆です。民主主義を尊重することとは、民衆が法をつくることの権利（正しさ）を――ソクラテスに言わせればたとえその法が悪法であっても――承認することなのです。

したがってウォルツァーは、共同体内部で得られる知識の方を重視して、次のように述べています。

内部で手にしうるのは、別種の知識である。それはより限定された、より特殊な性質の知識であり、私は、それを、⁽³⁾哲学的知識というよりも政治的知識と呼びたい。それは次のような問いに答える。このアソシエーションの意味や目的は何か。われわれの共同体や統治にとつ

て適切な構造とは何か。これらの問いに対する正しい答えがかりにある（かりに一般的な問いには正しい答えがあるとしても、特殊な問いに正しい答えがあるかどうかは疑わしい）と想定する場合も、共同体の数だけ多くの正しい答えがあるというのが本当である。しかし、共同体の外部には、唯一の正しい答えがある。太陽はただ一つしかないが多くの洞窟があるように、哲学的知識は普遍主義的で単一であるのに対して政治的知識には特殊で多元主義的な性格がある。（同前、傍点は原訳書）

ウォルツァーは、哲学的知識と政治的知識のあいだの緊張関係を、⁽⁴⁾ 哲学者が共同体から完全には離脱していないことに着目して、解決しようとしてきました。現代社会の哲学者の多くは、それぞれの政治共同体で市民生活もおくっています。その俗世間からの離脱は、あるとしても思弁的なものに過ぎません。件のソクラテスもプラトンも、仲間の市民たちとポリスに生きていたのです。

現代の民主主義社会においては、哲学者は一人の意見提供者に過ぎません。しかし、Xをもつてすれば、哲学者の責任は重大です。ソクラテスが憂慮したような、単なる「多数者の通念」の流布が甚だしい現況や、なにより〈正しさ〉に関する合意が難しくなっている事態を踏まえるならば、社会に生きる哲学者への期待は高まります。

（神島裕子『正義とは何か』による。出題の都合上、一部中略した箇所がある。）

（注） 1 アテナイ——古代ギリシアの都市国家（ポリス）。

2 ポリス——都市国家。

3 アナロジ——類推。

4 カール・ポパー——一九〇二—一九九四。オーストリア出身で、イギリスで活躍した哲学者。

5 ウイトゲンシュタイン——一八八九—一九五一。オーストリアの哲学者。

6 アソシエーション——組織、集団。

問1 傍線部(1)「自らの壮大なアイデア」とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ

選びなさい。解答番号は 17。

- ① 徳を備えた人格者である哲学者を統治者とし、統治者の政治的権力はポリス全体のために用いられ、ポリスは統治者を監視して権力の乱用を防ぐというもの。
- ② 哲学者から能力を認められた者を統治者とし、統治者は政治的権力を哲学的精神の下で行使し、公私にわたって中立的であるべく努めるというもの。
- ③ 哲学者の中でも特に優れた者が統治者となり、哲学的な知識を政治のうえに応用するとともに、ポリスの人民と生活を同じくして共感能力を育むというもの。
- ④ 学識に長けた哲学者が統治者となり、統治者は振る舞いのうえでポリスの手本となるべく精進を重ね、ポリスの人民を自らの家族同然に遇するというもの。
- ⑤ 真実を重んじる哲学者を統治者に据え、統治者をポリスのために存在するものとして、そのためにいかなる私有財産も所有しないようにするというもの。

問2

傍線部(2)「哲学が追求する真理と、人びとの民主的な決定、この二つのあいだにある緊張関係」とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① 民主制の下では、哲学が示す真理が民主的な決定に影響し、民衆を正しい方向へと導いてきたというもの。
- ② 民主制の下では、哲学が認めた真理に対して、民主的な決定は常にそれに反発する形でなされるというもの。
- ③ 民主制の下では、法をつくる権利を民衆が行使できることが重要で、民主主義は社会の外部にある哲学に優先する。
- ④ 民主制の下では、哲学的な真理はあまり歓迎されず、無関係なところで民主的な決定がなされるというもの。
- ⑤ 民主制の下では、哲学的な真理が社会の正しさを支えており、民主的な決定の根拠となっているというもの。

問3

傍線部(3)「哲学的知識というよりも政治的知識と呼びたい。」とあるが、ここでウォルツァーが区別している「哲学的知識」と「政治的知識」に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

19。

- ① 哲学的知識は、共同体の外部からそのあり方を問う普遍的なものであるのに対し、政治的知識は、共同体の内部において、その共同体に固有の正しさを探究するものである。
- ② 哲学的知識は、特定の共同体の中だけで通用する特殊な考えであるのに対し、政治的知識は、あらゆる共同体に共通して適用できる普遍的な規範である。
- ③ 哲学的知識は、現実から離れた抽象的な思索であるため価値が低いものであるのに対し、政治的知識は、人々の生活に根差した実践的なものであるため価値が高い。
- ④ 哲学的知識は、政治的知識を基礎として初めて成り立つ応用的なものであるため、哲学者は、まず共同体内部の政治的知識を学ぶ必要がある。
- ⑤ 哲学的知識と政治的知識は、元来は同じものであったが、社会が複雑化するにつれて、専門家が扱う知識と一般人が扱う知識へと分化していった。

問4 傍線部(4)「哲学者が共同体から完全には離脱していないこと」とあるが、このことはここではどのような意味を持つのか。その説明とし

て最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

- ① 哲学者は、共同体の中からそのよりよいあり方を哲学者として探り、民衆に働きかけていく役目を担うという意味。
- ② 哲学者も、共同体の一員として哲学的な真理を捨て去り、共同体としての正しさを追求していくという意味。
- ③ 哲学者は、共同体の中では哲学者としての資格を失うので、哲学的な真理にはたどり着けないという意味。
- ④ 哲学者は、共同体のために哲学的な真理を探究するので、自身も厳密には共同体の一員と見なせるという意味。
- ⑤ 哲学者は、共同体の一員である限りは、その正しいあり方を導き出すことは決してできないという意味。

問5 空欄 X にあてはまる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

- ① 民主主義は現在ではすでに衆愚政治に陥っていること
- ② 民主主義が優れた統治者を持つことができないこと
- ③ 民主主義が数ある統治システムの一つに過ぎないこと
- ④ 民主主義に全幅の信頼をおくことができないこと
- ⑤ 民主主義がすでに破綻しているシステムであること

問6

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 22。

- ① プラトンは、人間の正しい魂の育成のために理想のポリスを想定し、ポリスの正義を支えるのが人間だとした。
- ② プラトンの考える理想のポリスとは、真の哲学者である哲人王が、民衆をその適性によって活用するものである。
- ③ プラトンの時代とは異なって、現代では誰もが正義を語る主体となりうる、という点で正義論は民主化している。
- ④ ウォルツァーは、孤独に真理を探究する哲学者のイメージから、哲学者に統治者としての資質を見いだせなかった。
- ⑤ ソクラテスとプラトンの時代とは異なって、現代社会の哲学者の多くは政治共同体で市民として暮らしている。

一般選抜（前期日程）2024年2月1日（木）実施

国語

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
解答	2	3	4	4	3	5	5	1	4	2	4	3	2	2	4
番号	16	17	18	19	20	21	22								
解答	4	5	5	3	2	1	5								

一般選抜（前期日程）2024年2月2日（金）実施

国語

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
解答	4	2	5	2	3	5	2	3	2	4	3	5	2	4	4
番号	16	17	18	19	20	21	22								
解答	2	4	1	2	4	2	3								

一般選抜（前期日程）2025年2月4日（火）実施

国語

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
解答	4	5	2	3	4	1	3	2	1	2	3	2	1	4	3
番号	16	17	18	19	20	21	22								
解答	4	5	3	2	4	5	3								

一般選抜（前期日程）2025年2月5日（水）実施

国語

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
解答	5	1	2	4	2	3	4	5	3	2	2	3	1	4	2
番号	16	17	18	19	20	21	22								
解答	4	3	5	2	2	4	5								

一般選抜（前期日程）2026年2月4日（水）実施

国語

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
解答	5	2	3	1	2	5	3	4	5	3	5	3	4	2	3
番号	16	17	18	19	20	21	22								
解答	1	3	5	5	2	1	2								

一般選抜（前期日程）2026年2月5日（木）実施

国語

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
解答	5	2	1	2	5	4	1	3	1	2	2	5	4	2	1
番号	16	17	18	19	20	21	22								
解答	4	5	3	1	1	4	3								